

2026年度 学生便覧(履修ガイド)

経営学部

※2026年4月時点の内容を掲載しています。
内容に変更がある場合は、公式ホームページ
または、CHUKYO ALBO 等にて案内します。

■ 教育課程と資格課程について

進級・卒業要件、全学共通科目・学部固有科目の一覧表、履修上の注意事項や取得できる資格などを掲載。必ず確認してから、履修登録をしてください。

1	進級要件と卒業要件	1
2	全学共通科目一覧表	2
3	全学共通科目について	3
4	学部固有科目一覧表	6
5	学部固有科目の特徴	7
6	学部固有科目の履修上の注意事項	11
7	ビジネススキルズ・学部優秀論文の表彰制度	14
8	学修相談・指導について	15
9	資格課程	16
10	教職課程	17
11	司書教諭課程	26
12	司書課程	27
13	学芸員課程	28
14	社会教育主事課程	30
15	教育課程表一覧	32
16	正規留学生の全学共通科目について	35

1 進級要件と卒業要件

問合せ先 教務センター

進級要件及び卒業要件は、それぞれに示す条件を満たす必要があります。なお、在学期間に休学は含みません。

進級要件

在学期間に関する条件

進級するには、各年次2セメスター以上の在学が必要です。これを満たすと、次年度春学期に進級します。秋学期に進級することはありません。

卒業要件

次の条件をどちらも満たしている場合、卒業します。

在学期間に関する条件

通算4年間(8セメスター)以上在学し、かつ4年次に2セメスター以上の在学が必要です。

学業に関する条件

卒業に必要な単位は下表の通りです。履修登録や修得単位の確認については、すべて各自の責任において行ってください。

科目区分	卒業所要単位	
全学共通科目	選択必修	30単位
	選 択	14単位
	小 計	44単位
学部固有科目	必 修	4単位
	選択必修①	12単位
	選択必修②	16単位
	選 択	48単位
	小 計	80単位
総 計	124単位	

・他学部開講科目(総合政策学部・経済学部)は、学部固有科目の選択科目として24単位まで卒業所要単位に算入されます。

4年生における履修・修得単位の条件

在学最終学期において、全学共通科目又は学部固有科目のうち1科目以上履修・修得しなければなりません。

※3年次又は4年次春学期において卒業所要単位124単位を充足した場合についても上記の要件は適用されます。

本条件を満たすために以下の科目を履修することは、極力避けてください。病気・けが等をした際に、必要な授業出席回数を満たせず、単位修得ができない可能性があります。

○スポーツ実技科目

○集中講義科目

第7 セメスター	第8 セメスター	卒業要件 充足の有無
0 (修得科目なし)	1科目以上	○ (卒業可)
1科目以上	1科目以上	○ (卒業可)
1科目以上	0 (修得科目なし)	× (卒業不可)

留年生について

- ・卒業所要単位に満たなかった単位を修得すれば卒業します。
- ・4年次卒業要件の未充足により留年した場合は、1科目以上履修・修得すれば卒業します。

履修登録制限単位

下表の通りセメスターごとに定められた履修登録制限単位(1学期に履修できる単位数の限度)を超えて科目を履修登録することはできません。

学 年	1		2		3		4	
学 期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
セメスター	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
制限単位数	24	24	24	24	24	24	24	24

※自由科目は履修登録制限単位に含まれません。また、卒業所要単位にも含まれません。

※以下の科目は履修登録制限単位に含まれませんが、卒業所要単位に算入されます。

海外教養科目、海外ビジネス研修、海外短期研修I・II、海外留学、インターンシップI・II、ビジネススキルズ

学年		1年	2年	3年	4年	卒業要件 (44単位)		
系	科目群	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)			
教養発展科目	学びの実践	発展ゼミ		発展ゼミ(言語文化)I(2) 発展ゼミ(健康科学)I(2) 発展ゼミ(自然科学)I(2) 発展ゼミ(人文科学)I(2) 発展ゼミ(社会科学)I(2) 発展ゼミ(複合領域)I(2)	発展ゼミ(言語文化)II(2) 発展ゼミ(健康科学)II(2) 発展ゼミ(自然科学)II(2) 発展ゼミ(人文科学)II(2) 発展ゼミ(社会科学)II(2) 発展ゼミ(複合領域)II(2)	2単位		
		テーマ指向型科目	外国語：各国映画への招待(2) 英語の諸相(2) 日本語を学ぶ(2) 多文化リテラシー(2) 自然：データサイエンス実践(2) 人間：インターネットを思索する(2) 哲学カフェ(2) 考える歴史学(2) 社会：現代社会と人権(2) 社会と安全(2) ボランティアの実践(2) 多様性から考える(2) グローバル化と日本(2) 複合領域：性の諸相(2) 平和の実践(2) 情報と社会(2) 環境をめぐる議論(2)					
	外国語演習	英語	English for Travel(2) English for Entertainment(2) 時事英語(2) 日本を伝える英語(2) 英語の語彙と発音(2) アカデミック・イングリッシュ・スキルズ(2) English Presentation(2) Discussion and Debate(2) 英語資格対策基礎(2) 英語資格対策上級(2) 英語セミナーI(2) 英語セミナーII(2)					
		第一外国語	ドイツ語演習I(2) ドイツ語演習II(2) ドイツ語応用I(2) ドイツ語応用II(2) ロシア語演習I(2) ロシア語演習II(2) ロシア語応用I(2) ロシア語応用II(2) フランス語演習I(2) フランス語演習II(2) フランス語応用I(2) フランス語応用II(2) 中国語演習I(2) 中国語演習II(2) 中国語応用I(2) 中国語応用II(2) スペイン語演習I(2) スペイン語演習II(2) スペイン語応用I(2) スペイン語応用II(2) 韓国朝鮮語演習I(2) 韓国朝鮮語演習II(2) 韓国朝鮮語応用I(2) 韓国朝鮮語応用II(2)					
	グローバルコミュニケーション	外国語基礎	英語	ベーシック英語リーディングA(1) エレメンタリー英語リーディングA(1) インターメディアイト英語リーディングA(1) アドバンス英語リーディングA(1)			1単位	
			英語	ベーシック英語リーディングB(1) エレメンタリー英語リーディングB(1) インターメディアイト英語リーディングB(1) アドバンス英語リーディングB(1)			1単位	
			英語	ベーシック英語コミュニケーションA(1) エレメンタリー英語コミュニケーションA(1) インターメディアイト英語コミュニケーションA(1) アドバンス英語コミュニケーションA(1)			1単位	
			英語	ベーシック英語コミュニケーションB(1) エレメンタリー英語コミュニケーションB(1) インターメディアイト英語コミュニケーションB(1) アドバンス英語コミュニケーションB(1)			1単位	
		第一外国語	ドイツ語基礎A(通年2)	ドイツ語基礎B(通年2)			4単位	
			ロシア語基礎A(通年2)	ロシア語基礎B(通年2)				
第一外国語		フランス語基礎A(通年2)	フランス語基礎B(通年2)			4単位		
		中国語基礎A(通年2)	中国語基礎B(通年2)					
第一外国語		スペイン語基礎A(通年2)	スペイン語基礎B(通年2)			4単位		
		韓国朝鮮語基礎A(通年2)	韓国朝鮮語基礎B(通年2)					
教養基礎科目	学びのエッセンス	ことばの科学(2) ことばと文化(2)				14単位		
	テーマからの学び	異文化研究(2)						
スポーツ・健康	スポーツ実技	卓球(1) 硬式テニス(1) バドミントン(1) バレーボール(1) バスケットボール(1) サッカー(1)	ソフトボール(1) ゴルフ(1) ニュースポーツ(1) フィットネス(1) トレーニング(1) エアロビクス(1)	シーズンスポーツ・スケート(1) アダプテッドスポーツA(1) アダプテッドスポーツB(1)	2単位			
	学びのエッセンス	健康科学(2) スポーツ科学(2)				2単位		
自然の探究	学びのエッセンス	ウェブ設計(2) 宇宙地球科学(2) 化学(2) 教養統計学(2) 数学(2) 生物学(2) 物理学概論(2)				4単位		
	テーマからの学び	コンピュータプログラミング(2) 人間生活の中の宇宙地球科学(2) 身近な物質の化学(2) 社会における統計学(2) 数理と社会(2) 生物と環境(2) 日常の中の物理学(2)						
人間の探究	学びのエッセンス	文学(2) 日本史(2) 西洋史(2) 東洋史(2) 哲学(2) 倫理学(2) 論理学(2) 心理学(2)				4単位		
	テーマからの学び	人間の心と言葉(2) 日本史と現代世界(2) ヨーロッパ史と現代世界(2) アジア史と現代世界(2) 科学と技術の哲学(2) 自由と正義の倫理学(2) レトリックの論理学(2)						
社会の探究	学びのエッセンス	人文地理学(2) 社会学(2) 教育学(2) 経済学(2) 政治学(2) 法学(2) 日本国憲法(2) 文化人類学概論(2)				4単位		
	テーマからの学び	地域らしさの探求(2) 障害と社会(2) 教育と社会(2) 暮らしと経済(2) 国際関係と日本(2)						
複合領域	学びのエッセンス	ジェンダー論(2) 平和学(2) 情報科学(2) 環境科学(2) 国際協力学(2) キャリアデザイン論(2)				4単位		
	テーマからの学び	現代社会とジェンダー(2) 国際平和論(2) 情報と技術(2) 環境テーマ論(2)						
		中京大学を知る(2) 海外教養科目(4)						
		教養トピック講義(2) 全学開放科目(8)						

左の単位
以外で全
学共通科
目のいず
れかから

全学共通科目について

全学共通科目のカリキュラムは、基礎から発展へと学びを積み重ねることができるように「教養基礎科目」と「教養発展科目」に分かれています。多様な科目が置かれていますので、シラバスで各科目の内容を確認して科目を選択し、総合的な知識を身につけるとともに、論理的思考力とコミュニケーション能力を磨いてください。

※履修登録は各自がCHUKYO ALBOで行います。

※復学者・編転入学者の履修については、教務センター窓口まで申し出てください。

不開講科目／履修者数制限

履修希望者が極端に少ない場合、科目によっては、各学期始めに授業担当教員と履修者との合意の上で、その学期の授業を不開講とすることがあります。初回の授業には必ず出席し、授業担当教員の説明をよく聞いてください。

また、履修希望者が多すぎて授業に支障をきたす場合は、履修者数の制限を行うことがあります。

教養基礎科目

コミュニケーション能力の基礎、諸分野の基礎的知識を幅広くかつ体系的に修得し、また健康と体力の維持・増進をはかります。

学びのエッセンス／テーマからの学び

各科目群の講義科目は、諸学をカバーする基幹的な科目である「学びのエッセンス」と、分野ごとに設定されたテーマについて知識と理解を深める「テーマからの学び」に分かれています。

「学びのエッセンス」の科目から履修することも、「テーマからの学び」から履修することもできます。

スポーツ・健康

学びのエッセンスに配当されている「健康科学」「スポーツ科学」は1つの学期に、いずれか1科目(2単位)しか履修登録できません。

スポーツ実技

スポーツ実技科目(各1単位)から卒業所要単位として2単位を修得しなければなりません。

《履修上の注意》

- ①スポーツ実技科目は1つの学期に1科目(1単位)しか履修登録できません。ただし、シーズンスポーツは他のスポーツ実技科目との同時履修登録が可能です。シーズンスポーツのみの履修登録も可能です。
- ②各スポーツ実技科目では履修者数制限を行います。
- ③「シーズンスポーツ・スケート」は豊田キャンパスにて、その他のスポーツ実技科目と同様に毎週1回開講します。詳細はCHUKYO ALBOにてお知らせします。
- ④「アダプテッドスポーツA・B」は、長期にわたり他のスポーツ実技科目の履修が困難と考えられる学生を対象とします。履修には医療機関が発行する診断書が必要です。履修希望者は履修登録前までに学生サポートセンターに申し出てください。その後、学生サポートセンターと授業担当教員との間で協議した上で、履修の可否を決定します。

グローバルコミュニケーション(外国語基礎)

英語

下表の4区分(英語選必(1)~(4))の中から卒業所要単位として各区分1科目(1単位)を修得してください。

区分	科目名	開講期/単位数	卒業要件
英語選必(1)	アドバンスト英語リーディングA インターミディエイト英語リーディングA エレメンタリー英語リーディングA ベーシック英語リーディングA	春学期 /各1単位	1単位 選択 必修
英語選必(2)	アドバンスト英語リーディングB インターミディエイト英語リーディングB エレメンタリー英語リーディングB ベーシック英語リーディングB	秋学期 /各1単位	1単位 選択 必修
英語選必(3)	アドバンスト英語コミュニケーションA インターミディエイト英語コミュニケーションA エレメンタリー英語コミュニケーションA ベーシック英語コミュニケーションA	春学期 /各1単位	1単位 選択 必修
英語選必(4)	アドバンスト英語コミュニケーションB インターミディエイト英語コミュニケーションB エレメンタリー英語コミュニケーションB ベーシック英語コミュニケーションB	秋学期 /各1単位	1単位 選択 必修

※場合によっては不開講となる科目もあります。

《履修上の注意》

- ①1年生配当科目のため、1年生で履修することが望めます。
 - ②シラバスを参照し、各区分(英語選必(1)~(4))から、それぞれ1科目を履修しなければなりません(各科目のレベルと到達目標については下表を参照してください)。
 - ③各区分において履修登録できる科目数は、各学期1科目となります。
 - ④各区分において1科目修得した場合は、同一区分の他の科目は履修できません。
- ※履修登録は各自がCHUKYO ALBOで行います。なお、各科目には定員があり、履修者数制限を行います。

科目名	受講対象者のレベルと到達目標
アドバンスト	これまで英語学習に十分な力を注いできて高い英語力を持ち、さらに力を伸ばしたいと考えている学生や、英検2級程度の英語力を持つ学生を対象とする。英検準1級以上の学力をつけることを目標とする。
インターミディエイト	英検準2級程度の英語力を持ち、大学レベルの英語を身につけたいと考えている学生を対象とする。英検2級以上の学力をつけることを目標とする。
エレメンタリー	英検3級程度の英語力を持つ学生を対象とする。英検準2級程度の学力をつけることを目標とする。
ベーシック	これまで英語学習にあまり力を注いでこなかったために英語の初歩に立ち戻って学習しようと考えている学生や、英検4級程度の英語力を持つ学生を対象とする。英検3級程度の基礎的な学力をつけることを目標とする。

第二外国語

《外国語基礎A・B》

1年生は全員、ドイツ語、ロシア語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国朝鮮語のいずれかの外国語基礎A・Bを履修しなければなりません。各言語及びクラスには定員があり、自動抽選で決定します。言語及びクラスは新1年生ガイダンス内で発表します。

再履修について

詳細はCHUKYO ALBOで案内しますので確認してください。

英語

事前申請が必要です。

原則として、開講されている4区分の中の「ベーシック」又は「エレメンタリー」で再履修してください。

第二外国語

履修登録は各自がCHUKYO ALBOで行います。このとき、1年次で履修したものと同じ外国語の外国語基礎でなければなりません。やむを得ない理由で1年次とは異なる外国語の履修を希望する場合には、**1年生の秋学期の成績が開示されてから、2年生春学期の履修登録開始日前日までの間に教務センター窓口へ申し出てください。期間外の申請は認められません。**変更理由やクラス定員の問題により変更が認められない場合もあります。なお、履修登録にあたっては、外国語基礎A・Bをセットで登録するようにしてください。

教養発展科目

教養基礎科目で培った基礎的な知識やコミュニケーション能力の基礎をさらに深め、実践的な学修を通じて多面的・論理的思考力を養います。

「学びの実践」科目群又は「グローバルコミュニケーション(外国語演習)」科目群から卒業所要単位として2単位を修得しなければなりません。

学びの実践

アクティブラーニングの比率を高めたテーマ指向型科目と、教養教育で培われた知識と能力を総合的に活用する発展ゼミがあります。

発展ゼミ

言語文化・健康科学・自然科学・人文科学・社会科学・複合領域の6分野で編成されています。

《履修上の注意》

履修希望者は、初回の授業に必ず出席してください。

発展ゼミⅡを履修する場合は、同じ分野の発展ゼミⅢを修得済みでなければなりません。

グローバルコミュニケーション(外国語演習)

英語

レベルと到達目標、その他についてはシラバスで確認してください。

第二外国語

《外国語演習Ⅰ・Ⅱ及び外国語応用Ⅰ・Ⅱ》

外国語演習Ⅰ・Ⅱ及び外国語応用Ⅰ・Ⅱを履修する場合は、それに対応した外国語基礎A・Bを両方修得済みでなければなりません。履修希望者は、初回の授業に必ず出席してください。

その他

第三外国語

第二外国語として提供されている6言語のうち、すでに修得した第二外国語以外の中から3つ目の外国語を修得し、全学共通科目の選択単位として卒業所要単位に算入することができます。

《第三外国語としての外国語基礎A・B》

第三外国語を履修する場合は、第二外国語で履修した外国語基礎A・Bの両方を修得済みでなければなりません。

第三外国語は、外国語基礎A・Bいずれか一方でも履修できます。

《第三外国語としての外国語演習Ⅰ・Ⅱ及び外国語応用Ⅰ・Ⅱ》

第三外国語として希望する外国語演習Ⅰ・Ⅱ及び外国語応用Ⅰ・Ⅱを履修する場合は、それに対応した第三外国語の外国語基礎A又は外国語基礎Bを修得済みか同時に履修登録しなければなりません。

《履修方法》

第三外国語の履修希望者は、**春学期履修登録期間中及び修正期間中に教務センター窓口へ申し出てください。**

※希望するクラスの履修者数が多い場合は、履修できないことがあります。

海外教養科目

グローバル交流センターの交換留学、認定留学、政府等奨学金留学、ディズニー・インターンシップ及び Semester 留学に参加した学生が留学先大学で修得した科目については、原則として全学共通科目にある科目に読み替えてこれを認定します(成績表上には「N」として表記されます)。

- ①上記読み替えがきかない科目の中で、教養教育研究院が認めた科目については、全学共通科目「海外教養科目」として認定します。
- ②「海外教養科目」として認定できる単位の総数は4単位までとし、1単位、3単位などの分割認定も認めます。
- ③履修登録は不要です。なお、履修登録制限単位には含めません。

4

学部固有科目一覧表

問合せ先 教務センター

区分	学年	1年	2年	3年	4年	卒業要件 (80単位)			
必修科目	科目群	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)				
必修科目	学びの基礎	キャリアデザイン(2) アカデミックスキルズ(2)				4単位			
	経営学の基礎	経営学入門Ⅰ(2) 経営学入門Ⅱ(2) 簿記入門Ⅰ(2) 簿記入門Ⅱ(2)				12単位 ※			
選択必修科目	選択必修①	グローバル・ビジネス・コミュニケーション&リーダーシップ ビジネス・リーダーシップ養成プログラム(BLP)					16単位 ※		
	選択必修②	経営学の基礎 グローバル・ビジネス・コミュニケーション&リーダーシップ ビジネス・リーダーシップ養成プログラム(BLP)	企業・ストラテジー 現代企業論(2) 中小企業論(2) 情報・ビジネス戦略(2) 経営戦略論(2) 国際経営論(2) マーケティング論(2) 組織・マネジメント 経営管理論(2) 経営情報論Ⅰ(2) 生産管理論(2) 経営組織論(2) 人材マネジメントⅠ(2) 経営科学Ⅰ(2) 会計・ファイナンス 金融論(2) 会計学Ⅰ(2) 管理会計Ⅰ(2) 商業簿記(2) 工業簿記(2) 経営分析(2)			48単位			
選択科目	演習		ゼミナールⅠ(2) ゼミナールⅡ(2)	ゼミナールⅢ(2) ゼミナールⅣ(2)	ゼミナールⅤ(2) ゼミナールⅥ(2)		48単位		
	展開科目		経営プロジェクト研究A(2) 経営プロジェクト研究B(2) 経営プロジェクト研究C(2) 経営プロジェクト研究D(2)	企業・ストラテジー 日本経営史(2) マーケティング・リサーチ(2) 消費者行動論(2)	ベンチャービジネス論(2) 国際経営史(2) マーケティング戦略(2) サービス・マーケティング(2) 消費社会論(2) 企業と社会論(2) 国際ビジネス戦略(2) 地域産業論(2)	組織・マネジメント 人材マネジメントⅡ(2) 経営情報論Ⅱ(2) 経営科学Ⅱ(2) 組織デザイン論(2) 組織行動論(2)		産業心理学(2) グローバル経営管理論(2) 組織間関係論(2) ダイバーシティ・マネジメント(2) 組織心理学(2) 意思決定論(2)	
			会計・ファイナンス 会計学Ⅱ(2) 国際金融論(2) 管理会計Ⅱ(2)	財務会計Ⅰ(2) 財務会計Ⅱ(2) コーポレート・ファイナンスⅠ(2) コーポレート・ファイナンスⅡ(2) リスクマネジメントⅠ(2) リスクマネジメントⅡ(2) 証券市場論Ⅰ(2) 証券市場論Ⅱ(2)	経営外書講読A(2) 経営外書講読B(2) ビジネス・イングリッシュⅢ(2) ビジネス・イングリッシュⅣ(2) 海外短期研修Ⅱ(2) 海外留学(1~16)	海外短期研修Ⅰ(2)		コミュニケーション&リーダーシップ(2) プロジェクト・マネジメント(2)	インターンシップⅠ(2) インターンシップⅡ(2)
			グローバル・ビジネス・コミュニケーション&リーダーシップ	ビジネス・リーダーシップ養成プログラム(BLP)	データベース(2) プログラミング(2) ビジネス・データサイエンスA(2) ビジネス・データサイエンスB(2)	会社法(2) 税法(2) 企業法Ⅰ(2) 企業法Ⅱ(2) 民法Ⅰ(2) 民法Ⅱ(2) 労働法Ⅰ(2) 労働法Ⅱ(2) 経済原論Ⅰ(2) 経済原論Ⅱ(2) 経営学特殊講義A(2) 経営学特殊講義B(2) 経営学特殊講義C(2) 経営学特殊講義D(2) ☆行政法(2) ☆国際法Ⅰ(2) ☆国際法Ⅱ(2) ☆歴史Ⅰ(2) ☆歴史Ⅱ(2)		ビジネススキルズ(2~8)	☆キャリア指導Ⅰ(2) ☆キャリア指導Ⅱ(2)
			ビジネス・データサイエンス	会社法(2) 税法(2) 企業法Ⅰ(2) 企業法Ⅱ(2) 民法Ⅰ(2) 民法Ⅱ(2) 労働法Ⅰ(2) 労働法Ⅱ(2) 経済原論Ⅰ(2) 経済原論Ⅱ(2) 経営学特殊講義A(2) 経営学特殊講義B(2) 経営学特殊講義C(2) 経営学特殊講義D(2) ☆行政法(2) ☆国際法Ⅰ(2) ☆国際法Ⅱ(2) ☆歴史Ⅰ(2) ☆歴史Ⅱ(2)	☆キャリア指導Ⅰ(2) ☆キャリア指導Ⅱ(2)	他学部開講科目(総合政策学部・経済学部)			
			関連科目						
			その他						

※「選択必修①②」で卒業要件を超えて修得した場合は学部固有科目の「選択科目」として卒業所要単位の算入されます(48単位に含める)。
☆…教職履修者のみが履修でき、修得した場合は自由単位となります(48単位に含めない)。

学部固有科目の目的

ビジネスの現場では、自ら問題を発見して解決する能力、グループで仕事を遂行するために必要なコミュニケーション能力が求められます。これらの能力を身につけるためには、理論と実践、知識と技能に関する科目をバランスよく学ぶ必要があります。

この観点から経営学部の学部固有科目のうち、理論と知識に関する科目については「企業・戦略」「組織・マネジメント」「会計・ファイナンス」の3つの分野に区分の上、経営学の関連分野を加えた体系になっています。

実践と技能に関する科目については、これからのビジネスの現場に不可欠な英語力の修得や実際の体験を通じて学修する「グローバル・ビジネス・コミュニケーション&リーダーシップ」科目、コンピュータによる情報収集・加工・発信に関するリテラシーを修得する「ビジネス・データサイエンス」科目、少人数による双方向型教育の「演習」科目を配置しています。

段階的学修のための年次別履修

経営学部では経営学全般の基本的な知識を固めてから、応用的な知識を無理なく修得できるように、年次ごとの段階的な科目配分をしています。

1年次は社会人としての基本能力(読む力、書く力、伝える力、協同する力)につながる「必修科目」、経営学全般に共通する「基礎科目(選択必修)」及び英語・コンピュータ系の入門科目を修得し、2年次以上では各分野の「基幹科目(選択必修)」を修得した後に、自分の将来の進路や興味のある分野の「展開科目(選択)」及び「関連科目(選択)」を掘り下げて修得していく段階的な学修プログラムになっています。

また、2年次からは「演習(選択)」のゼミナールI~VI、経営プロジェクト研究 A・B・C・Dを履修できます。

演習科目の履修の勧め

演習とは、少人数の学生を対象に教員と互いに質疑討論を交わしたり、発表することで、専門知識の修得はもちろん、問題把握・解決能力やプレゼンテーション能力、協同作業によるコミュニケーション能力を高めることができる授業形態です。学生と教員、学生相互間の親睦も深まることで大学生活の中軸となるほか、卒業後の進路決定に際しても大変役立ちます。

経営学部の演習科目には、2年次から実質3年間にわたって同一の専任教員の指導のもとで専門分野を研究し、その集大成としてゼミナール論文の完成を目指す「ゼミナールI~VI(選択)」、実務家を含む教員の指導のもとでセメスター単位にて特定の専門分野を研究する「経営プロジェクト研究 A・B・C・D(選択)」があります。大学で何を学んだか「演習で何を学んだか」とも言えることから、演習科目は積極的に履修してください。

ビジネス英語科目の履修の勧め

自ら海外進出している企業はもちろん、国内に基盤のある企業でも取引先がコスト削減の観点から海外進出する等、企業活動のグローバル化にともない、世界共通のコミュニケーション手段である英語の重要性は益々高まっています。経営学部ではワールドワイドなビジネスに対応できるように、学部固有科目としてビジネス英語力を高める科目を配置しています。TOEIC対策講座又は基礎的な英会話中心のビジネス・イングリッシュI・II、応用的な英会話中心のビジネス・イングリッシュIII・IVは、少人数のクラス編成で学修できます。体験型の海外ビジネス研修(シンガポール、約1週間)やグローバル交流センター主催の海外留学・研修プログラム、全学共通科目の英語科目とともに積極的に履修してください。

年次別の科目配当(必修科目、選択必修科目、選択科目)

科目の配当学年

学部固有科目は学年別に配当されており、上級学年の配当科目を履修することはできません。なお、上級学年は下級学年の配当科目を履修すること(再履修)ができます。

必修科目

必修科目とは、卒業のためには必ず修得を要する科目のことです。1年次の「キャリアデザイン」及び「アカデミックスキルズ」の2科目(計4単位)となります。

選択必修科目

選択必修科目とは、特定の科目群の中から指定された単位数の修得を要する科目のことです。選択必修科目の区分は下表のとおりです。

学年別区分	修得単位数	特定の科目群	
		春学期 (第1セメスター)	秋学期 (第2セメスター)
1年次の 選択 必修科目	12単位以上 (6科目以上)	経営学入門I 簿記入門I ビジネス・イングリッシュI ビジネス・コンピューティングI データサイエンス入門I 海外ビジネス研修 (夏季休暇に実施、履修登録 制限単位の対象外)	経営学入門II 簿記入門II ビジネス・イングリッシュII ビジネス・コンピューティングII データサイエンス入門II ストラテジック・シンキング
		12科目、各2単位	
2年次の 選択 必修科目	16単位以上 (8科目以上)	情報・ビジネス戦略 経営戦略論 マーケティング論 経営管理論 経営情報論I 経営組織論 人材マネジメントI 経営科学I 金融論 会計学I 管理会計I 商業簿記	現代企業論 中小企業論 国際経営論 生産管理論 工業簿記 経営分析
		18科目、各2単位	

選択科目

選択科目とは、自分の専門分野や興味に基づいて選択する科目です。必修科目及び選択必修科目以外の学部固有科目(卒業所要単位を超えて修得した選択必修①②の科目を含む)、他学部開講科目(総合政策学部・経済学部)から48単位以上を修得してください。

体系的学修のための履修モデル(参考)について

経営学部の学部固有科目は、学生の将来進路に合わせて「企業・ストラテジー」「組織・マネジメント」「会計・ファイナンス」の3分野にモデル化し、体系的・段階的に学修ができるように編成されています。また、業績や成果を上げるために重要となる人々の心を理解する「経営心理」モデル、企業活動をインターネットを始めとするITとシステムでとらえる「経営情報」モデルもあります。

これらのモデルは学生の将来進路に合わせて、1年次から4年次までの科目選択の例を示したものです。各モデルで示された年次別の履修例を参考にしながら、他の履修モデルの科目や他学部開講科目も組み入れて学修計画を作ってください。

企業・ストラテジーモデル

企業は、ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を投入し、運用することで効果的なアウトプットを目指しますが、これらの経営資源は無限大ではなく、いかなる企業でも限りがあることが一般的です。経営資源を有効に運用するには、衰退市場よりは成長市場、自社が弱い分野よりは強い分野を選択し、集中的に投下します。変化する企業環境に対応して、競争優位の観点から限りある経営資源の割り当て方針を決めることが戦略です。企業の活動は戦略に基づきますが、そこで働く人の意思決定や行動の指針となるものに企業目標、経営理念があります。営利性の有無、規模の大小、株式公開の有無等の違いは企業の戦略や目標に影響を及ぼすことがあるため、企業それ自体についても理解する必要があります。

1年次では基礎科目及び英語・コンピュータ系の入門科目を中心とする学修を通じて、経営学全般及びリテラシーの基礎を固めます。2年次では、まず企業・ストラテジー分野を中心とした基幹科目を学修し、それから企業・ストラテジー分野の展開科目及び関連領域の展開科目について3、4年次を含めて学修します。なお、グローバル化・情報化時代の経営者として、英語及びコンピュータ系科目もバランスよく学修してください。

(予想される進路)

起業家、経営者(後継者)、経営企画部門
コンサルタント等の経営専門家

	1年次	2年次	3・4年次
基礎・基盤	学びの基礎 アカデミックスキルス(必修) キャリアデザイン(必修)	ゼミナールⅠ・Ⅱ 経営プロジェクト研究A・B・C・D 経営外書講読A・B	ゼミナールⅢ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ 経営プロジェクト研究A・B・C・D 経営外書講読A・B
	BP ストラテジック・シンキング	コーチングコミュニケーション &リーダーシップ プロジェクト・マネジメント	
知識と理論	経営学・ビジネスの基礎 選択必修① 経営学入門Ⅰ・Ⅱ 簿記入門Ⅰ・Ⅱ データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ ビジネス・イングリッシュⅠ・Ⅱ ビジネス・コンピューティングⅠ・Ⅱ	経営学・ビジネスの理論と知識 選択必修②※ 現代企業論 中小企業論 情報・ビジネス戦略 経営戦略論 国際経営論 マーケティング論 日本経営史 マーケティング・リサーチ 消費者行動論	ベンチャービジネス論 国際経営史 マーケティング戦略 サービス・マーケティング 消費社会論 企業と社会論 国際ビジネス戦略 地域産業論
	体験と実践 海外ビジネス研修 海外短期研修Ⅰ (4年次春学期まで)	ビジネス・データサイエンスA・B データベース プログラミング ビジネス・イングリッシュⅢ・Ⅳ 海外短期研修Ⅱ(4年次春学期まで) 海外留学 インターンシップⅠ・Ⅱ(2～3年次まで)	
関連分野		ビジネススキルズ(3年次まで)	
		会社法、税法、企業法Ⅰ・Ⅱ、民法Ⅰ・Ⅱ、労働法Ⅰ・Ⅱ、経済原論Ⅰ・Ⅱ、経営学特殊講義A・B・C・D	

※ 選択必修②は、これらの科目以外に組織・マネジメント分野の科目(経営管理論、経営情報論Ⅰ、生産管理論、経営組織論、人材マネジメントⅠ、経営科学Ⅰ)及び会計・ファイナンス分野の科目(金融論、会計学Ⅰ、管理会計Ⅰ、商業簿記、工業簿記、経営分析)があります。自分の具体的な将来進路に合わせて適宜組み合わせ履修してください。

組織・マネジメントモデル

企業は、最大のアウトプットを目指してヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を投入します。経営資源の割り当ては最適であっても、うまく使いこなせていない、すなわち運用が劣ってれば、投入した経営資源に見合うアウトプットは期待できません。したがって、企業は経営資源を有効に運用するため、計画(Plan)を基に運用(Do)、その結果を点検(Check)、必要に応じて改善(Act)する、PDCAサイクルを通じて管理します。このPDCAサイクルによる管理は、生産、販売、人事、財務等の個々の視点及び全社的な視点から、企業の経営組織を通じて実行されます。企業の戦略、経営目標を達成するために必要な管理体制は、分業-協同、専門化、階層構造による経営組織の形態と密接な関係にあります。

1年次では基礎科目及び英語・コンピュータ系の入門科目を中心とした学修を通じて、経営学全般及びリテラシーの基礎を固めます。2年次では、まず組織・マネジメント分野を中心とした基幹科目を学修し、それから組織・マネジメント分野の展開科目及び関連領域の展開科目について3、4年次を含めて学修します。なお、グローバル化・情報化時代の組織に対応するため、英語及びコンピュータ系科目もバランスよく学修してください。

(予想される進路)

生産管理部門、販売部門、物流部門、総務・人事部門等の管理者

	1 年 次	2 年 次	3・4 年 次
基礎・基盤	学びの基礎 アカデミックスキルズ(必修) キャリアデザイン(必修)	ゼミナールⅠ・Ⅱ 経営プロジェクト研究A・B・C・D 経営外書講読A・B	ゼミナールⅢ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ 経営プロジェクト研究A・B・C・D 経営外書講読A・B
	BLP ストラテジック・シンキング	コーチングコミュニケーション &リーダーシップ プロジェクト・マネジメント	
知識と理論	経営学・ビジネスの基礎 選択必修① 経営学入門Ⅰ・Ⅱ 簿記入門Ⅰ・Ⅱ データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ ビジネス・イングリッシュⅠ・Ⅱ ビジネス・コンピューティングⅠ・Ⅱ	経営学・ビジネスの理論と知識 選択必修②※ 経営管理論 経営情報論Ⅰ 生産管理論 経営組織論 人材マネジメントⅠ 経営科学Ⅰ 人材マネジメントⅡ 経営情報論Ⅱ 経営科学Ⅱ 組織デザイン論 組織行動論	産業心理学 グローバル経営管理論 組織関係論 ダイバーシティ・マネジメント 組織心理学 意思決定論
	体験と実践 海外ビジネス研修 海外短期研修Ⅰ (4年次春学期まで)	ビジネス・データサイエンスA・B データベース プログラミング ビジネス・イングリッシュⅢ・Ⅳ 海外短期研修Ⅱ(4年次春学期まで) 海外留学 インターンシップⅠ・Ⅱ(2～3年次まで)	
関連分野		ビジネススキルズ(3年次まで)	
		会社法、税法、企業法Ⅰ・Ⅱ、民法Ⅰ・Ⅱ、労働法Ⅰ・Ⅱ、経済原論Ⅰ・Ⅱ、経営学特殊講義A・B・C・D	

※ 選択必修②は、これらの科目以外に企業・ストラテジー分野の科目(現代企業論、中小企業論、情報・ビジネス戦略、経営戦略論、国際経営論、マーケティング論)及び会計・ファイナンス分野の科目(金融論、会計学Ⅰ、管理会計Ⅰ、商業簿記、工業簿記、経営分析)があります。自分の具体的な将来進路に合わせて適宜組み合わせ履修してください。

会計・ファイナンスモデル

企業は、ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を投入し、それらを運用することで成果であるアウトプット、すなわち損益や企業価値の増加を目指します。投入した経営資源が同じならアウトプットが多い、アウトプットが同じなら投入する経営資源が少ない方が有効な運用をしたこととなります。経営者は過去及び現在の運用結果を踏まえて次期以降の経営計画を作り、途中で運用成果をチェックし、必要に応じて計画の見直しを行います。この企業の活動における経営資源の投入量やアウトプット量を測定・評価し、関係者に伝達すること、社内での目標管理や業績評価に活用することが会計の役割です。また、必要な時期に必要な資金を調達し、設備投資や金融商品投資などで効率的な資金運用を目指す財務活動は、会計と密接な関係にあります。

1年次では基礎科目及び英語・コンピュータ系の入門科目を中心とした学修を通じて、経営学全般及びリテラシーの基礎を固めます。2年次では、まず会計・ファイナンス分野を中心とした基幹科目を学修し、それから会計・ファイナンス分野の展開科目及び関連領域の展開科目について3、4年次を含めて学修します。なお、会計・ファイナンスでは計数処理も多いことから、コンピュータ等を含む情報系科目も十分に学修してください。

(予想される進路)

経理・会計部門、財務部門、公認会計士・税理士等の会計専門家

	1 年 次	2 年 次	3・4 年 次
基礎・基盤	学びの基礎 アカデミックスキルズ(必修) キャリアデザイン(必修)	ゼミナールⅠ・Ⅱ 経営プロジェクト研究A・B・C・D 経営外書講読A・B	ゼミナールⅢ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ 経営プロジェクト研究A・B・C・D 経営外書講読A・B
	BLP ストラテジック・シンキング	コーチングコミュニケーション &リーダーシップ プロジェクト・マネジメント	
知識と理論	経営学・ビジネスの基礎 選択必修① 経営学入門Ⅰ・Ⅱ 簿記入門Ⅰ・Ⅱ データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ ビジネス・イングリッシュⅠ・Ⅱ ビジネス・コンピューティングⅠ・Ⅱ	経営学・ビジネスの理論と知識 選択必修②※ 金融論 会計学Ⅰ 管理会計Ⅰ 商業簿記 工業簿記 経営分析 会計学Ⅱ 国際金融論 管理会計Ⅱ	財務会計Ⅰ・Ⅱ コーポレート・ファイナンスⅠ・Ⅱ リスクマネジメントⅠ・Ⅱ 証券市場論Ⅰ・Ⅱ
	体験と実践 海外ビジネス研修 海外短期研修Ⅰ (4年次春学期まで)	ビジネス・データサイエンスA・B データベース プログラミング ビジネス・イングリッシュⅢ・Ⅳ 海外短期研修Ⅱ(4年次春学期まで) 海外留学 インターンシップⅠ・Ⅱ(2～3年次まで)	
関連分野		ビジネススキルズ(3年次まで)	
		会社法、税法、企業法Ⅰ・Ⅱ、民法Ⅰ・Ⅱ、労働法Ⅰ・Ⅱ、経済原論Ⅰ・Ⅱ、経営学特殊講義A・B・C・D	

※ 選択必修②は、これらの科目以外に企業・ストラテジー分野の科目(現代企業論、中小企業論、情報・ビジネス戦略、経営戦略論、国際経営論、マーケティング論)及び組織・マネジメント分野の科目(経営管理論、経営情報論Ⅰ、生産管理論、経営組織論、人材マネジメントⅠ、経営科学Ⅰ)があります。自分の具体的な将来進路に合わせて適宜組み合わせ履修してください。

経営心理モデル

企業は、人と人とのつながりで成り立っており、業績や成果を上げるには人の心を読むこと、つまり人間の心理面に着目することが必要です。例えば、商品の売上げを上げるには、消費者の購買心理を理解し、商品企画や広告・宣伝に生かすことが大切です。また、企業の従業員に一体感を持って生き生きと働いてもらうためには、職場の人間関係や、モチベーション(意欲)について理解しておかなければなりません。さらに、企業経営においては経営者の判断やリーダーシップが重要となりますが、これを理解するのに経営者心理を学ぶ必要があります。

このように、企業に関係する人々の心理を理解することは企業経営にとって非常に重要なことになってきます。

1年次では基礎科目及び英語・ビジネス・データサイエンス系の入門科目を中心とした学修を通じて、経営学全般及びリテラシーの基礎を固めます。2年次以降は経営心理学に関する科目のほか、企業・ストラテジー、組織・マネジメント、会計・ファイナンスの基幹・展開科目もバランスよく学修の上、インターンシップなどにも積極的に参加し実践の機会を通じて人間への理解を深めてください。

(予想される進路)

商品企画部門、広報部門、人事部門等の担当者・管理者

	1年次	2年次	3・4年次
基礎・基盤	学びの基礎 アカデミックスキル(必修) キャリアデザイン(必修)	ゼミナールⅠ・Ⅱ 経営プロジェクト研究A・B・C・D 経営外書講読A・B	ゼミナールⅢ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ 経営プロジェクト研究A・B・C・D 経営外書講読A・B
	BLP ストラテジック・シンキング	コーチングコミュニケーション &リーダーシップ プロジェクト・マネジメント	
知識と理論	経営学・ビジネスの基礎 選択必修① 経営学入門Ⅰ・Ⅱ 簿記入門Ⅰ・Ⅱ データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ ビジネス・イングリッシュⅠ・Ⅱ ビジネス・コンピューティングⅠ・Ⅱ	経営学・ビジネスの理論と知識 選択必修②※ 現代企業論 中小企業論 マーケティング論 経営組織論 人材マネジメントⅠ 管理会計Ⅰ 人材マネジメントⅡ 管理会計Ⅱ マーケティング・リサーチ 消費者行動論 組織行動論	ベンチャービジネス論 サービス・マーケティング 消費社会論 産業心理学 ダイバーシティ・マネジメント 組織心理学 意思決定論 リスクマネジメントⅠ・Ⅱ
	体験と実践 海外ビジネス研修 海外短期研修Ⅰ (4年次春学期まで)	ビジネス・データサイエンスA・B データベース プログラミング ビジネス・イングリッシュⅢ・Ⅳ 海外短期研修Ⅱ(4年次春学期まで) 海外留学 インターンシップⅠ・Ⅱ(2～3年次まで)	
関連分野		ビジネススキル(3年次まで)	
		会社法、税法、企業法Ⅰ・Ⅱ、民法Ⅰ・Ⅱ、労働法Ⅰ・Ⅱ、経済原論Ⅰ・Ⅱ、経営学特殊講義A・B・C・D	

※ 選択必修②は、これらの科目以外に情報・ビジネス戦略、経営戦略論、国際経営論、経営管理論、経営情報論Ⅰ、生産管理論、経営科学Ⅰ、金融論、会計学Ⅰ、商業簿記、工業簿記、経営分析があります。自分の具体的な将来進路に合わせて適宜組み合わせ履修してください。

経営情報モデル

企業は、内外環境の変化を迅速かつ正確に把握することから始まります。企業内部に在庫、人員等のムダがあれば改善しなければなりません。顧客の嗜好の変化や競合企業の動きにも敏感に対応する必要があります。このような経営環境の変化を「データ」として記録し、意思決定に必要な「経営情報」を生成する仕組みが情報システムです。インターネットを始めとするIT(情報技術)の進歩により、情報システムの開発、運営は企業の規模や職種を問わず必須の課題となっています。また、情報システムは単に経営の合理化だけでなく、顧客に直接的に商品を販売する等、戦略的な武器としてもその重要性が増しています。今日ではITを有効活用しない企業は、それだけで競争から脱落すると言っても過言ではありません。

1年次では基礎科目及び英語・コンピュータ系の入門科目を中心とした学修を通じて、経営学全般及びリテラシーの基礎を固めます。2年次以降はコンピュータの実践・応用系の科目のほか、経営情報分野の基幹科目及び展開科目を学修し、専門知識を身につけます。IT・経営情報はあらゆる企業のあらゆる仕事と関連し、IT関連の仕事では経営学全般の幅広い知識が要求されるため、企業・ストラテジー、組織・マネジメント、会計・ファイナンス分野の基幹・展開科目もバランスよく学修してください。

(予想される進路)

IT企画部門、システム開発部門、システムエンジニア等の情報専門家

	1年次	2年次	3・4年次
基礎・基盤	学びの基礎 アカデミックスキル(必修) キャリアデザイン(必修)	ゼミナールⅠ・Ⅱ 経営プロジェクト研究A・B・C・D 経営外書講読A・B	ゼミナールⅢ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ 経営プロジェクト研究A・B・C・D 経営外書講読A・B
	BLP ストラテジック・シンキング	コーチングコミュニケーション &リーダーシップ プロジェクト・マネジメント	
知識と理論	経営学・ビジネスの基礎 選択必修① 経営学入門Ⅰ・Ⅱ 簿記入門Ⅰ・Ⅱ データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ ビジネス・イングリッシュⅠ・Ⅱ ビジネス・コンピューティングⅠ・Ⅱ	経営学・ビジネスの理論と知識 選択必修②※ 情報・ビジネス戦略 経営戦略論 経営管理論 経営情報論Ⅰ 会計学Ⅰ 経営分析 経営情報論Ⅱ 会計学Ⅱ マーケティング・リサーチ 組織デザイン論	マーケティング戦略 国際ビジネス戦略 産業心理学 グローバル経営管理論 意思決定論 リスクマネジメントⅠ・Ⅱ 証券市場論Ⅰ・Ⅱ
	体験と実践 海外ビジネス研修 海外短期研修Ⅰ (4年次春学期まで)	ビジネス・データサイエンスA・B データベース プログラミング ビジネス・イングリッシュⅢ・Ⅳ 海外短期研修Ⅱ(4年次春学期まで) 海外留学 インターンシップⅠ・Ⅱ(2～3年次まで)	
関連分野		ビジネススキル(3年次まで)	
		会社法、税法、企業法Ⅰ・Ⅱ、民法Ⅰ・Ⅱ、労働法Ⅰ・Ⅱ、経済原論Ⅰ・Ⅱ、経営学特殊講義A・B・C・D	

※ 選択必修②は、これらの科目以外に現代企業論、中小企業論、国際経営論、マーケティング論、生産管理論、経営組織論、人材マネジメントⅠ、経営科学Ⅰ、金融論、管理会計Ⅰ、商業簿記、工業簿記があります。自分の具体的な将来進路に合わせて適宜組み合わせ履修してください。

必修科目

キャリアデザイン

この科目は1年次春学期の必修科目です。必修科目につき、単位を修得できなかった場合は2年次に再履修となります。

アカデミックスキルズ

この科目は1年次春学期の必修科目です。必ず指定されたクラスで受講してください。なお、必修科目につき、単位を修得できなかった場合は2年次に再履修となります。再履修のクラスはCHUKYO ALBOで案内しますので、各自指定されたクラスで受講してください。

選択必修科目

経営学入門Ⅰ・Ⅱ、簿記入門Ⅰ・Ⅱ

これらの科目は1年次の選択必修科目(経営学の基礎科目群)で、学籍番号に応じてクラスを指定しています。時間割表を参照し、履修登録してください。

データサイエンス入門Ⅱ

この科目は1年次の選択必修科目(ビジネス・データサイエンス科目群)です。この科目を履修するためには、「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みでなければなりません。

海外ビジネス研修

この科目は選択必修科目(グローバル・ビジネス・コミュニケーション&リーダーシップ科目群)です。夏季休暇を利用し、シンガポールでの語学研修、現地調査及び発表等を通じて、実践的な英語力及び国際的なビジネス感覚の必要性を学ぶことを目的としています。履修登録は不要であり、履修登録制限単位(1学期24単位)には含めません(認定)。募集はCHUKYO ALBOを通じて4月に案内します。
※この科目は経営学部の企画・主催によるものですが、履修希望者が最小催行人数以下の場合には本学グローバル交流センターの企画・主催による「海外短期研修」への参加を検討してください。ただし、その場合当該科目の履修を保証するものではありません。

ビジネス・イングリッシュⅠ・Ⅱ

これらの科目は1年次の選択必修科目(グローバル・ビジネス・コミュニケーション&リーダーシップ科目群)で、同一科目で複数のクラスを開講します。少人数によるTOEIC対策講座又は英会話中心のクラスにつき、履修者数の制限を行うことがあります(1クラス当たり20名を上限)。

履修者が多数の場合は抽選が行われ、履修が許可された場合はCHUKYO ALBOの「履修時間割参照」画面に科目名が表示されるため、初回の授業に必ず出席してください。

ビジネス・コンピューティングⅠ・Ⅱ

これらの科目は1年次の選択必修科目(ビジネス・データサイエンス科目群)であり、同一科目で複数のクラスを開講します。これらの科目はコンピュータを使用するため、履修者数の制限を行うことがあります。

履修者が多数の場合は抽選が行われ、履修が許可された場合はCHUKYO ALBOの「履修時間割参照」画面に科目名が表示されるため、初回の授業に必ず出席してください。

選択必修科目・選択科目

BLP

BLP(ビジネス・リーダーシップ養成プログラム)とは、ビジネスリーダーにとって必須の能力である、ロジカルシンキングや戦略思考、ビジネスコミュニケーションやコーチングなどを学び、その上で、少人数グループによるケーススタディーを繰り返しながら、プロジェクトマネジメント能力を身につけます。PBL型(問題解決型)授業によって、将来直面する課題に対し、リーダーシップを発揮して課題を解決する能力を身につけたビジネスパーソンを育成するプログラムです。プログラムの詳細は下表の通りです。

BLP	1年	秋学期	ストラテジック・シンキング
	2年	春学期	コーチングコミュニケーション&リーダーシップ インターンシップⅠ・Ⅱ
		秋学期	プロジェクト・マネジメント インターンシップⅠ・Ⅱ
	3年	春学期	インターンシップⅠ・Ⅱ
		秋学期	インターンシップⅠ・Ⅱ

BLP(ビジネス・リーダーシップ養成プログラム)の申込みや履修登録については以下の通りです。

①各科目の履修申し込み案内はCHUKYO ALBOで行います。案内時期は下表の通りです。

科目名	申込み案内時期
ストラテジック・シンキング	1年次春学期 定期試験期間頃
コーチングコミュニケーション& リーダーシップ	1年次秋学期 定期試験期間頃
プロジェクト・マネジメント	2年次春学期 定期試験期間頃

※詳細は別途CHUKYO ALBOにてお知らせします。

②CHUKYO ALBOで案内する指定期間内に申込み手続きをしなかった場合は履修登録できません。

③本プログラムの各科目には定員が設定されています。履修希望者が多数の場合、総修得単位数及びGPA等により選抜を行います。選抜結果は履修登録期間開始までにCHUKYO ALBOで発表します。

なお、申込みをした場合は履修の取消ができませんので注意してください。

④本プログラムの科目は積み上げ方式です。

例1)「ストラテジック・シンキング」(1年秋)未修得⇒「コーチングコミュニケーション&リーダーシップ」(2年春)は履修できません。

例2)「コーチングコミュニケーション&リーダーシップ」(2年春)未修得⇒「プロジェクト・マネジメント」(2年秋)は履修できません。

⑤本プログラムの各科目は履修登録制限単位数に含み*、学部固有科目として卒業所要単位の以下区分に算入されます。

科目名	算入区分
ストラテジック・シンキング	選択必修①
コーチングコミュニケーション&リーダーシップ プロジェクト・マネジメント	選択科目

※インターンシップⅠ・Ⅱは履修登録制限単位数に含みません。

⑥インターンシップⅠ・Ⅱについては、P13に記載しております。

ゼミナールⅠ～Ⅶ

これらの科目は選択科目(演習科目群)であり、ゼミナールⅠ・Ⅱは2年次、ゼミナールⅢ・Ⅳは3年次、ゼミナールⅤ・Ⅵは4年次を対象に開講します。ゼミナールⅠ～Ⅶは、少人数(15～20名程度)の学生が専門分野について、同一の学部専任教員の指導のもとで実質3年間の研究を行う演習科目であり、最終的にはゼミナール論文の作成にも取り組みます。

履修登録及び単位修得は、海外留学等の場合を除き、原則としてⅠ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳ→Ⅴ→Ⅵの順番による連続履修であり(例えばⅠを単位修得しなければ、Ⅱの履修登録はできません)、原則として指導教員の変更はできません。

ゼミナールⅠの募集は1年次秋学期に行います。応募方法は、秋学期にCHUKYO ALBOで案内します。復学者・編転入学者・留学者でゼミナールの履修を希望する学生は、教務センター窓口まで申し出てください。

経営プロジェクト研究A・B・C・D

これらの科目は選択科目(演習科目群)であり、経営学部専任教員や実務家を含む外部講師の指導のもと、少人数(20名前後)の学生が特定の専門分野を半期集中型で取り組む演習科目です。ゼミナールと同様にグループワークや調査、報告等を主体とした演習科目につき、受講生自らの積極的な授業参加が求められます。経営プロジェクト研究A・B・C・Dの応募方法は各学期末にCHUKYO ALBOで案内します。少人数の演習科目につき、履修者数の制限を行うことがあります。

ビジネス・イングリッシュⅢ・Ⅳ

これらの科目は選択科目(グローバル・ビジネス・コミュニケーション&リーダーシップ科目群)であり、ビジネス・イングリッシュⅡ修了者(又は基礎的な英会話力のある者)を対象に同一科目で複数のクラスを開講します。ネイティブスピーカー講師の指導のもと、基礎から発展的な内容を含む少人数の英会話中心のクラスにつき、履修者数の制限を行うことがあります(1クラス当たり20名を上限)。

履修者が多数の場合は抽選が行われ、履修が許可された場合はCHUKYO ALBOの「履修時間割参照」画面に科目名が表示されるため、初回の授業に必ず出席してください。

海外短期研修Ⅰ

この科目は選択科目(グローバル・ビジネス・コミュニケーション&リーダーシップ科目群)であり、グローバル交流センターの海外短期研修(海外大学体験・海外語学研修・海外ボランティア・海外ビジネス研修・第二外国語学研修・SAF分野別研修)を修了し、指定期間に課題を提出することにより合格の評価を得た場合、所定の単位が認定されます。

①科目名:「海外短期研修Ⅰ」

②評価:N(認定)

③単位数:2単位

④履修登録は不要で、履修登録制限単位数(各学期24単位)には含まれません。なお、4年次については、夏季のセミナーまでは単位が認定されますが、春季のセミナーは対象外です。

⑤プログラムの実施有無、募集時期や参加方法等についてはグローバル交流センターのポータルサイト「GLOBAL NAVI」にて確認してください。

海外短期研修Ⅱ

この科目は選択科目(グローバル・ビジネス・コミュニケーション&リーダーシップ科目群)であり、海外短期研修Ⅰの単位認定済みで、2回目のグローバル交流センターの海外短期研修(海外大学体験・海外語学研修・海外ビジネス研修・第二外国語語学研修・SAF分野別研修)を修了し、指定期間に課題を提出することにより合格の評価を得た場合は、海外短期研修Ⅱとして所定の単位が認定されます。
※海外短期研修Ⅰと同一のプログラムの場合は、単位認定することはできません。

- ①科目名：「海外短期研修Ⅱ」
- ②評価：N(認定)
- ③単位数：2単位
- ④履修登録は不要で、履修登録制限単位(各学期24単位)には含めません。なお、4年次については、夏季のセミナーまでは単位が認定されますが、春季のセミナーは対象外です。
- ⑤プログラムの実施有無、募集時期や参加方法等についてはグローバル交流センターのポータルサイト「GLOBAL NAVI」にて確認してください。

海外留学

この科目は選択科目(グローバル・ビジネス・コミュニケーション&リーダーシップ科目群)であり、グローバル交流センターの交換留学、認定留学、政府等奨学金留学、ディズニー・インターンシップ及びセメスター留学で取得した科目について、原則として経営学部のカリキュラムにある科目に読み替えて単位を認定します(認定)。

読み替えができない科目のうち、経営学部が認めた科目は学部固有科目「海外留学」として単位を認定します。「海外留学」として認定できる単位の総数は16単位までとし、1単位や3単位などの分割認定も認めます。履修登録は不要であり、履修登録制限単位(1学期24単位)には含めません。

インターンシップⅠ(国内インターンシップ)

- ①認定セメスターは教育課程表一覧を参照してください。
- ②キャリア支援課が実施する各種ガイダンスに参加することが必要です。ガイダンスに参加して、インターンシップへの参加方法や必要な提出物など、単位認定に至るまでの一連の流れを詳細に確認してください。
- ③必要条件を満たすと2単位が認定されます(成績表では「N」と表記されます)。
- ④履修登録は不要です。履修登録制限単位には含めません。

インターンシップⅡ(海外インターンシップ)

グローバル交流センターの海外短期研修(海外インターンシップ)を修了することで単位を認定します。

- ①行先・募集方法などの詳細は、グローバル交流センターのポータルサイト「GLOBAL NAVI」にて確認してください。
- ②研修を修了し、課題レポートを提出することにより学部固有科目(選択科目)として2単位が認定されます(成績表では「N」と表記されます)。
- ③履修登録は不要であり、履修登録制限単位には含めません。

データベース、プログラミング

この科目は選択科目(ビジネス・データサイエンス科目群)であり、同一科目で複数のクラスを開講します。この科目はコンピュータを使用するため、履修者数の制限を行うことがあります。

履修者が多数の場合は抽選が行われ、履修が許可された場合はCHUKYO ALBOの「履修時間割参照」画面に科目名が表示されるため、初回の授業に必ず出席してください。

ビジネス・データサイエンスA

この科目は選択科目(ビジネス・データサイエンス科目群)であり、同一科目で複数のクラスを開講しますが、「2、3年次優先クラス」を設けていますので、時間割表を参照して、自分の学年に応じたクラスを履修登録してください。また、この科目はコンピュータを使用するため履修者の制限を行うことがあります。

履修者が多数の場合は抽選が行われ、履修が許可された場合はCHUKYO ALBOの「履修時間割参照」画面に科目名が表示されるため、初回の授業に必ず出席してください。

ビジネス・データサイエンスB

この科目は選択科目(ビジネス・データサイエンス科目群)です。コンピュータを使用するため、履修者数の制限を行うことがあります。

履修者が多数の場合は抽選が行われ、履修が許可された場合はCHUKYO ALBOの「履修時間割参照」画面に科目名が表示されるため、初回の授業に必ず出席してください。

他学部開講科目(総合政策学部・経済学部
開講科目の履修・単位認定について)

経営学部生は、以下の履修条件にしたがって総合政策学部・経済学部開講の学部固有科目を履修することができます(全学開放科目とは異なりますので注意してください)。

■履修条件

- ・年度によっては履修不可となる科目がある場合があります。履修できる科目は履修登録の注意事項や時間割表に記載されています。
- ・2年次以降に履修可能となります。
- ・両学部科目から合計24単位までを、学部固有科目の選択科目として卒業所要単位に算入することができます。
- ・初回の授業で履修者を制限する場合があります。履修が許可された場合は、CHUKYO ALBOの「履修時間割参照」画面に科目名が表示されるため、初回の授業に必ず出席してください。

ビジネススキルズについて

- ①1～3年次の間に下表に示した資格を得た者(大学入学後に限る)に対して、8単位を限度として卒業所要単位(学部固有科目の選択科目)に認定します。
 ※申請時にTOEIC®730点以上のスコアを有する者は「TOEIC®600点以上」「TOEIC®730点以上」の計4単位を同時に認定します。
- ②履修登録は不要であり、履修登録制限単位には含めません。
- ③申請は、1～3年次は1年に2回、4年次は1年に1回受け付けます。
 申請方法・注意事項は以下の通りです。
- ・申請期間は1月中旬及び4月中旬(予定)です。ただし、4年次は、1月中旬の申請はできません。申請期間の約1ヶ月前にCHUKYO ALBOで申請方法・期間の詳細を案内します。
 - ・申請には資格の合格証書(認定証、合格書等)の写しが必要です。
 - ・認定結果は成績表又はCHUKYO ALBOで確認してください。
 - ・期限を過ぎた申請はいかなる理由があっても一切受け付けませんので注意してください。
- ただし、4年次で期間内に合格証書等の入手が主催側(簿記の場合は商工会議所等)の都合で間に合わない場合は、事前に教務センターへ相談してください。

資格名	認定単位
TOEIC®600点以上	2単位
TOEIC®730点以上	2単位
日商簿記検定1級	4単位
基本情報技術者	4単位

学部優秀論文の表彰制度について

経営学部では、大学生生活4年間での学業の集大成の一つとして、卒業に際して論文をまとめあげることがを勧めています。優秀な論文の提出者には、学部優秀論文賞(副賞を含む)を授与するとともに、優秀論文集に収めることで表彰いたします。卒業証書の他に残る学業面での学生生活の証として、積極的にチャレンジしてください。

学部優秀論文賞：記念盾、優秀論文集及び副賞

応募対象学生：経営学部4年生全員

提出期限：1月末

論文の様式等：枚数は図表、参考文献等も含めてA4サイズで15枚程度(目安として約2万字前後)を原則とすること。また学業内容やゼミナールの内容によっては、上記と異なる様式も認めるので(プログラミング等)、事前にゼミナール指導教員又は教務センター(経営学部担当)に照会のこと。

審査結果の発表：審査の上、2月末までにALBOに掲載

その他詳細は、CHUKYO ALBO及びゼミナール指導教員を通じて案内します。

オフィス・アワーについて

経営学部では、学部の教員がみなさんの学修について相談に応えるためオフィス・アワーという制度を設けています。授業の前後にお話することはもちろんできますが、研究室等においてきめ細かい対応や指導を受けることもできます。オフィス・アワーの時間帯は決まっていますので詳細は経営学部ホームページを確認してください。

■経営学部ホームページ

<https://manage.chukyo-u.ac.jp>

履修・学修アドバイザー制度について

経営学部では、『履修・学修アドバイザー制度』を実施しています。これは、みなさんが学修目標を持って大学生生活を過ごすこと、並びに4年間での卒業へ向けて適切なアドバイスを行うことを目的としています。実施基準・内容はアドバイス対象基準の通りです。

■学修における数値目標

学年	セメスター	修得単位数	累積修得単位数	GPA値
1	1	19単位以上	19単位以上	各セメスター 2.25以上
	2	23単位以上	42単位以上	
2	3	各セメスター 19単位以上	61単位以上	
	4		80単位以上	
3	5		99単位以上	
	6		118単位以上	
4	7	4単位以上	122単位以上	
	8	2～10単位以上	124単位以上	

※修得単位数は履修登録制限単位の約85%を目途としています。
※学修の質向上のため、GPA値アップに取り組むよう心がけてください。

■アドバイス対象基準

学年	セメスター	総修得単位数
1	1	16単位未満
	2	33単位未満
2	3	49単位未満
	4	64単位未満
3	5	78単位未満
	6	93単位未満
4	7	107単位未満
	8	留年者に対する個別面談 (3月下旬～4月中旬)

※セメスターごとに基準を確認してください。
※このアドバイス対象基準は、4年間の卒業を目標とするのであれば、最低クリアすべき基準です。

■アカデミック・スキルズ(1年次必修科目)の出席状況によるアドバイス

アカデミック・スキルズの出席回数が少ない受講生を対象として、4年間での卒業に向けて、卒業・進級要件の趣旨を始めとする大学での学び方・大学生活等を中心にアドバイスを行います。

■資格課程の履修によるアドバイス

資格課程(教職免許、司書教諭、司書、学芸員、社会教育主事)の履修学生は、経営学部の卒業要件単位に認められない自由科目(履修登録制限単位の対象外)も履修・修得する必要があります。資格課程を履修する2年生から4年生の全員(8セメスター目を除く)を対象に、目指す資格の取得と4年間での卒業の両立に向けてアドバイスを行います。

■アドバイス実施について

実施時期は春学期分を9月下旬、秋学期分を4月中旬とします。対象学生には教務センターよりCHUKYO ALBOを通じて連絡し、指導教員との面談を行います。

資格課程について

中京大学には、学士として卒業するための教育課程(以下では、学部教育課程といいます)のほかに、資格を取得するための資格課程が開設されています。この資格課程は、文部科学省や厚生労働省などの資格を与える公的機関から設置認可を受けた学部・学科に所属する学生に対して履修を認めています。しかし、司書課程や学芸員課程のように開設学部以外の学生が履修することのできる資格課程もありますので、下表を参照して取得可能な資格を確認してください。

資格課程は、学部教育課程と別に設置されているので、各資格課程に開講されている科目を修得しても、卒業所要単位には認められず、自由科目として扱われます。その代わりに、学部教育課程に設定されている履修登録制限単位に制限されることもありません。ただし、資格課程の必修科目や選択科目として全学共通科目や学部固有科目があげられている場合は履修登録制限単位に含まれます。

以下の資格を取得するには、各資格課程に定める科目を全て修得して、資格課程を修了することが必要です。

各学部で取得することのできる資格は、次のとおりです。

資格の種類(資格課程)	開設学部	履修できる学部
教員免許(教職課程)	全学部※1	全学部※1 (ただし、取得できる 免許教科が学部・学科により異なります)
司書教諭 (司書教諭課程)	文	工以外※2
司書 (司書課程)	文	工以外
学芸員 (学芸員課程)	文・現代社会	工以外
社会教育主事(任用資格) (社会教育主事課程)	現代社会	国際・工以外

※1 国際学部国際学科、工学部機械システム工学科、情報工学科、メディア工学科を除く

※2 現代社会学部は、社会学専攻、コミュニティ学専攻のみ(2015年度以降入学生)履修可能

■資格課程履修に関する留意事項

- (1) 学部ではセメスターごとに履修登録制限単位を定めています。これは、過剰な履修を防止し、授業時間外の事前・事後学修の時間を十分に確保することを目的としています。
- (2) 資格課程を履修する場合、必要な科目の履修のために、指定された科目に限り、履修登録制限単位を超えて履修することができます。ただし、(1)の目的を踏まえ、学びの質を担保するためにも過剰な履修は控え、自身に必要な学修時間を適切に確保してください。
- (3) 要卒単位と資格課程に必要な科目(単位)を卒業までにバランスよく履修できるよう、あらかじめ卒業までの時間割を作成するなど、計画的に取り組んでください。
- (4) 履修や学修に関して不明点や困難がある場合は、速やかに学部または担当部署に相談してください。

教員免許状取得について

教員免許状を取得しようとする学生は、卒業に必要な単位のほかに、免許教科に応じて各学科の教職課程で開講されている科目の単位修得が必要となります。さらに、中学校教諭1種免許状を取得するには、介護等体験に参加する必要があります。

教職課程の履修開始は2年生からです。ただし、教員免許状取得に必要な科目のうち、一部科目については1年生より開講されているものもありますので、教職課程に入る前にあらかじめ修得しておくなど、計画的に履修するようにしてください。

詳細については、学年別の教職ガイダンスを実施しますので、希望者あるいは履修者は必ず出席してください。なお、各ガイダンス等で課されるレポート提出や申し込み手続等を期日までに行わなかった場合、教職課程の受付及び教職課程の継続はできないので注意してください。また教育実習等の学外実習や科目履修、各種申し込みについては付帯条件が課せられていることもあります(各ガイダンスで説明します)。

教職課程を履修するには、学費とは別に教職課程履修登録費・教職実習履修費を納入する必要があります。また、教育実習や介護等体験に参加する場合の諸費用等が必要です。

教職課程履修申し込み

1. 教職課程履修の申し込み手続きの受付は、1年生3月下旬に行います。なお、申し込みができるのは、事前に実施された「1年生教職課程ガイダンス」の出席者のみです。
2. 教職課程履修費は33,000円(教職課程履修登録費10,000円+教職実習履修費23,000円)です。以下の要領に従って納入してください。

なお、納入した各履修費の返還はできません。

項目	金額	納入時期
教職課程履修登録費(注1)	10,000円	1年生の3月下旬
教職実習履修費(注1・2)	23,000円	2年生の3月下旬

注1. 金額は変更する場合があります。

注2. 介護等体験へ参加するには、介護等体験費8,500円が別途必要です。

3. 中学校教諭1種免許状取得希望者は別途介護等体験の申し込みが必要です。

《履修上の注意》

以下の場合、必ず教務センター(教職支援係)へ連絡してください。

1. 教職課程を辞退(教員免許状取得を断念)する場合。
2. 諸事情により、介護等体験(3年生)や教育実習(4年生)を該当年次に行わない場合。
3. 取得希望の免許状の種類・免許教科を変更する場合。
4. 休学又は留学をする場合。(科目履修だけでなく学外実習(教育実習や介護等体験など)に影響します。計画段階で早めに相談してください。)
5. その他、教務センター(教職支援係)に伝達が必要と思われる事項。例えば、実習校からの連絡を受けた場合など。

教員免許状の交付

教員免許状の取得に必要な単位を修得し、所定期日に免許状の申請手続を行った方は、卒業時に教員免許状を受け取ることができます。

1. 教員免許状を受け取るには、免許教科1件につき3,700円(交付申請料3,400円及び大学が発行する証明書手数料300円)が必要です。
2. 教員免許状は愛知県教育委員会から交付されます。大学から一括して申請手続を行いますので、教員免許状取得見込の4年生は9月以降から順次行われる手続きを期限内に完了させてください。

教職課程科目の履修登録

教職課程科目は、本学において「教職共通科目」「教科に関する科目」「教職に関する科目」に区分していますが、それぞれに必要な単位をすべて修得してください。

1. 「教職共通科目」「教科に関する科目」の中には1年生から開講される科目がありますので、計画的に履修を始めてください。
2. 「教科に関する科目」「教職に関する科目」は免許状の種類・免許教科に応じた科目を修得してください。
3. 「教職に関する科目」(学部固有科目としても開講している科目を除く)の単位は、履修制限単位には含まれません。また卒業所要単位にも算入されません。
4. 「教職共通科目」「教科に関する科目」「教職に関する科目」の中には、複数学科合同開講や履修者数制限を行う科目、隔年開講する科目等があります。自己責任において漏れないよう履修登録を行ってください。

介護等体験

1. 中学校教諭1種免許状取得希望者は、3年生において、県下の「社会福祉施設(5日間)」と「特別支援学校(2日間)」で合計7日間の介護等体験が義務づけられています。体験先や体験日程の決定については、CHUKYO ALBOで案内します。
2. 介護等体験のスケジュールについては、次頁の「教職課程行事予定表」を参照してください。
3. 介護等体験に先立って行われる「介護等体験の事前指導」を受講しなければ、介護等体験に参加することができません。
4. 介護等体験を終了すると、「証明書」(事前指導で配付)に介護等体験先の学校長・施設長より署名捺印が受けられます。この「証明書」は免許状申請手続の際に必要ですので教務センター(教職支援係)へ提出してください。

教育実習手続き・マナー研修

1. 教育実習受け入れに関する一切は、中京大学長と実習校の校長との間で手続文書が交わされ成立します。この書類が実習前年度に交わされていない学生は次年度の教育実習を実施できません。
2. 学部学科ごとに規定された教育実習履修要件を満たしていなければ、「教育実習I」又は「教育実習II」の履修はできません。
3. 「教育実習I」又は「教育実習II」の履修要件として先立って行われるマナー研修を受講済みである必要があります。日程等の詳細については、CHUKYO ALBOで案内します。

10 教職課程(経営学部)

問合せ先 教務センター(教職支援係)

教職課程行事予定表

●説明会・手続・履修 ○教育実習 ■介護等体験 ☆免許申請

対象学年	実施時期	履修行事	注意事項
1年	12月～1月	●1年生教職課程ガイダンス	*教務センター(教職支援係)より履修方法と諸手続について説明します。 *このガイダンスに出席しないと、2年生からの教職課程への加入を認めません。
	3月下旬	●教職課程の履修可能者発表(特定の学部)	*CHUKYO ALBOで発表します。
		●課程履修の申込み手続	*教職課程履修登録費10,000円を納入してください。 *未手続者は「教職に関する科目」の履修登録はできません。
2年	10月～11月	●2年生教職課程ガイダンス	*教職課程履修継続手続について説明します。 *このガイダンスで介護等体験の概要を説明します。 *このガイダンスに出席しないと、3年生からの教職課程の継続を認めません。
	3月下旬	■介護等体験事前指導(中学校免許取得希望者)(1日講習)	*2年生教職課程履修者ガイダンスに出席し、中学校免許取得を希望している方を対象とします。 *日程はCHUKYO ALBOで発表します。
		●課程履修の継続手続	*教職実習履修費23,000円を納入してください。 *未手続者は「教職に関する科目」の履修登録ができません。
3年		●新3年生教職課程ガイダンス	*教育実習の依頼校の選定と受け入れ依頼の方法を説明します。
	4月中旬	■介護等体験費納入	*介護等体験事前指導に出席し、事前指導レポートを提出して体験参加が認められた方は、指定期間に体験費8,500円を納入してください。
	4月下旬～5月下旬	○教育実習受け入れの依頼 ○愛知県公立小中、名古屋市立学校等の教育実習希望登録	*教育実習希望学校へは、原則各自で申込みをします。 *新3年生教職課程ガイダンスで依頼方法を説明しますので、それ以前に依頼しないようにしてください。 *愛知県公立小中、名古屋市立小中学校、その他大学を通して手続を行わなければならない自治体での教育実習希望者は希望登録を実施します。
	6月中旬～6月下旬	■介護等体験先決定(社会福祉施設 5日間) ■介護等体験の資料配布	*CHUKYO ALBO等で発表・配布します。
	7月上旬～中旬	■介護等体験先決定(特別支援学校 2日間) ■介護等体験の資料配布	
	7月上旬以降(指定日)	■介護等体験オリエンテーション	*社会福祉施設(5日間)、特別支援学校(2日間)とも決定先別オリエンテーションの指定日を確認し、必ず出席してください。
	7月中旬～介護等体験開始日	■介護等体験による授業欠席届の提出開始	*欠席届を体験の1・2週間前に各授業担当教員へ提出してください。
	8月～1月	■介護等体験の実施	*身なりや言動を正して体験を実施してください。
		■証明書と体験記録の提出	*計7日間の体験終了後、証明書と体験記録を提出してください。
	12月	○愛知県公立小中、名古屋市立学校の教育実習手続	*愛知県公立小中、名古屋市立学校での教育実習登録者に対して必要書類の手続を行います。
	2月下旬～3月下旬	○マナー研修の実施	*必ず受講してください。日程等の詳細についてはCHUKYO ALBOで発表します。
	3月下旬	○教育実習履修可能者判定	*教育実習履修要件の確認をします。
●新4年生教職課程ガイダンス		*教育実習の実施に関する諸注意と必要書類の説明をします。	
4月上旬以降	○教育実習の自己紹介書提出	*未確定項目がある場合でも、期日までに一旦提出してください。	
	○愛知県公立小中、名古屋市立小中学校の実習校決定 ○教育実習期間と実習校との打合せ日程の確認	*決定次第、対象者には、個別に必要な手続の連絡をします。 *実習校から届く回答を基に、各自で実習校に連絡をして日程を再確認してください。	
4月中旬～教育実習開始日	○教育実習による授業欠席届の提出開始	*実習の1・2週間前に各授業担当教員へ提出してください。	
4月中旬～11月下旬	○教育実習事前指導 ○教育実習巡回指導教員との打合せ ○教育実習事後指導	*実習中に担当教員(巡回指導教員)が実習校を訪問します。 *担当教員に実習中のスケジュール(研究授業日等)を伝え、訪問日を調整してください。	
	5月～11月	○教育実習の実施	*身なりや言動を正して実習を実施してください。
9月中旬	☆教員免許状一括申請可能者判定	*3月卒業見込みで免許状申請に必要な単位を修得見込みか確認します。(一括申請とは、免許状の申請を大学でとりまとめて行うことです。)	
9月下旬	☆教員免許状一括申請1次手続	*申請フォームへの回答と同時に教員免許状一括申請手数料を納付してください。 *教育委員会へ免許状申請予定者として登録をします。	
11月下旬	☆教員免許状一括申請2次手続	*教育委員会から登録者情報が出力されます。その内容を確認し必要事項を記入してください。	
卒業式当日	○教育実習記録と指導案の返却 教員免許状の交付	*免許状等は卒業証書とともに渡します。	

注1. 教職課程行事の詳細は各ガイダンス又はCHUKYO ALBOで連絡します。

注2. 実施時期の変更や上記以外の手続やガイダンスが発生する場合があります。その場合は、予めCHUKYO ALBO等で連絡します。

注3. 教職課程行事とは別に「教員採用試験対策」の教職サポートプログラム(参加は任意)を実施しています。詳細については、CHUKYO ALBO等で案内します。

10 教職課程(経営学部)

問合せ先 教務センター(教職支援係)

取得できる免許状の種類と教科

学部	学科	免許状の種類	免許教科
経営学部	経営学科	中学校教諭1種免許状	社会
		高等学校教諭1種免許状	地理歴史
		高等学校教諭1種免許状	公民
		高等学校教諭1種免許状	商業

教職共通科目

免許法施行規則に定める 科目区分	左記に対応する開設授業科目				
	授業科目	単位数		履修可能学年	修得科目 チェック
		必修	選択必修		
日本国憲法	日本国憲法	2		1~4年	
体育	健康科学		2	1科目2単位 選択必修	1~4年
	スポーツ科学		2		1~4年
	卓球		1	2科目 2単位 選択必修	1~4年
	硬式テニス		1		1~4年
	バドミントン		1		1~4年
	ゴルフ		1		1~4年
	ニュースポーツ		1		1~4年
	バレーボール		1		1~4年
	バスケットボール		1		1~4年
	ソフトボール		1		1~4年
	サッカー		1		1~4年
	トレーニング		1		1~4年
	フィットネス		1		1~4年
	エアロビクス		1		1~4年
	シーズンスポーツ・スケート		1		1~4年
	アダプテッドスポーツA		1		1~4年
アダプテッドスポーツB		1	1~4年		
外国語コミュニケーション	ベーシック英語コミュニケーションA		1	2科目 2単位 選択必修	1~4年
	ベーシック英語コミュニケーションB		1		1~4年
	エレメンタリー英語コミュニケーションA		1		1~4年
	エレメンタリー英語コミュニケーションB		1		1~4年
	インターメディアイト英語コミュニケーションA		1		1~4年
	インターメディアイト英語コミュニケーションB		1		1~4年
	アドバンス英語コミュニケーションA		1		1~4年
	アドバンス英語コミュニケーションB		1		1~4年
	ビジネス・イングリッシュI		2		1~4年
	ビジネス・イングリッシュII		2		1~4年
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作	ウェブ設計		2	1科目 2単位 選択必修	1~4年
	コンピュータプログラミング		2		1~4年
	ビジネス・コンピューティングI		2		1~4年
	ビジネス・コンピューティングII		2		1~4年
	教養統計学		2		1~4年

10 教職課程(経営学部)

問合せ先 教務センター(教職支援係)

教科に関する科目(中1種社会)

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目				
	授業科目	単位数		履修可能学年	修得科目チェック
		必修	※選択必修		
日本史・外国史	歴史Ⅰ☆	2		2~4年	
	歴史Ⅱ☆	2		2~4年	
	日本経営史		2	2~4年	
	国際経営史		2	3~4年	
地理学 (地誌を含む。)	人文地理学	2		1~4年	
	地域らしさの探求	2		1~4年	
	地誌A☆	2		2~4年	
	地誌B☆	2		2~4年	
	自然地理学A☆	2		3~4年	
	自然地理学B☆	2		3~4年	
「法律学、政治学」	行政法☆	2		2~4年	
	会社法		2	2~4年	
	税法		2	2~4年	
	民法Ⅰ	2		2~4年	
	民法Ⅱ	2		2~4年	
「社会学、経済学」	経済原論Ⅰ	2		2~4年	
	経済原論Ⅱ	2		2~4年	
	中小企業論		2	2~4年	
	消費社会論		2	3~4年	
	コーポレート・ファイナンスⅠ		2	3~4年	
	コーポレート・ファイナンスⅡ		2	3~4年	
「哲学、倫理学、宗教学」	倫理学	2		1~4年	
	自由と正義の倫理学	2		1~4年	
	哲学		2	1~4年	
	科学と技術の哲学		2	1~4年	
	企業と社会論		2	3~4年	

●単位数 教員の免許状取得のための必修科目(選択必修科目の単位数を含む) 32単位

※選択必修科目11科目のうち、1科目2単位必修

注) ☆印の科目は履修登録制限単位に含まれません。

10 教職課程(経営学部)

問合せ先 教務センター(教職支援係)

教科に関する科目(高1種地歴)

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目				
	授業科目	単位数		履修可能学年	修得科目チェック
		必修	※選択必修		
日本史	歴史Ⅰ☆	2		2~4年	
	日本経営史		2	2~4年	
外国史	歴史Ⅱ☆	2		2~4年	
	国際経営史		2	3~4年	
人文地理学・自然地理学	人文地理学	2		1~4年	
	地域らしさの探求	2		1~4年	
	自然地理学A☆	2		3~4年	
	自然地理学B☆	2		3~4年	
地誌	地誌A☆	2		2~4年	
	地誌B☆	2		2~4年	
	グローバル経営管理論		2	3~4年	
	国際経営論		2	2~4年	
	地域産業論		2	3~4年	
	国際金融論		2	2~4年	
	中部経済論☆		2	3~4年	
	アジア経済論☆		2	3~4年	
	アメリカ経済論☆		2	3~4年	
ヨーロッパ経済論☆		2	3~4年		

●単位数 教員の免許状取得のための必修科目(選択必修科目の単位数を含む) 32単位

※選択必修科目10科目のうち、8科目16単位必修
注) ☆印の科目は履修登録制限単位に含まれません。

10 教職課程(経営学部)

問合せ先 教務センター(教職支援係)

教科に関する科目(高1種公民)

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目				
	授業科目	単位数		履修可能学年	修得科目チェック
		必修	※選択必修		
「法律学(国際法を含む。)、 政治学(国際政治を含む。)」	国際法Ⅰ☆	2		2~4年	
	国際法Ⅱ☆	2		2~4年	
	行政法☆	2		2~4年	
	会社法		2	2~4年	
	税法		2	2~4年	
	民法Ⅰ	2		2~4年	
	民法Ⅱ	2		2~4年	
「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」	経済原論Ⅰ	2		2~4年	
	経済原論Ⅱ	2		2~4年	
	中小企業論		2	2~4年	
	消費社会論		2	3~4年	
	コーポレート・ファイナンスⅠ		2	3~4年	
	コーポレート・ファイナンスⅡ		2	3~4年	
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	倫理学	2		1~4年	
	自由と正義の倫理学	2		1~4年	
	心理学	2		1~4年	
	哲学		2	1~4年	
	科学と技術の哲学		2	1~4年	
	企業と社会論		2	3~4年	
	産業心理学		2	3~4年	
	組織心理学		2	3~4年	

●単位数 教員の免許状取得のための必修科目(選択必修科目の単位数を含む) 32単位

※選択必修科目11科目のうち、6科目12単位必修
注) ☆印の科目は履修登録制限単位に含まれません。

10 教職課程(経営学部)

問合せ先 教務センター(教職支援係)

教科に関する科目(高1種商業)

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目				
	授業科目	単位数		履修可能学年	修得科目チェック
		必修	※選択必修		
商業の関係科目	簿記入門Ⅰ	2		1~4年	
	簿記入門Ⅱ	2		1~4年	
	経営戦略論	2		2~4年	
	経営情報論Ⅰ	2		2~4年	
	経営情報論Ⅱ	2		2~4年	
	企業法Ⅰ	2		2~4年	
	企業法Ⅱ	2		2~4年	
	ウェブ設計		2	1~4年	
	コンピュータプログラミング		2	1~4年	
	国際ビジネス戦略		2	3~4年	
	経営組織論		2	2~4年	
	人材マネジメントⅠ		2	2~4年	
	人材マネジメントⅡ		2	2~4年	
	マーケティング論		2	2~4年	
	ビジネス・コンピューティングⅠ		2	1~4年	
	ビジネス・コンピューティングⅡ		2	1~4年	
	中小企業論		2	2~4年	
	ベンチャービジネス論		2	3~4年	
	現代企業論		2	2~4年	
	経営管理論		2	2~4年	
	組織デザイン論		2	2~4年	
	生産管理論		2	2~4年	
	マーケティング戦略		2	3~4年	
	経営科学Ⅰ		2	2~4年	
	経営科学Ⅱ		2	2~4年	
	商業簿記		2	2~4年	
	会計学Ⅰ		2	2~4年	
	会計学Ⅱ		2	2~4年	
財務会計Ⅰ		2	3~4年		
財務会計Ⅱ		2	3~4年		
職業指導	キャリア指導Ⅰ☆	2		3~4年	
	キャリア指導Ⅱ☆	2		3~4年	

●単位数 教員の免許状取得のための必修科目(選択必修科目の単位数を含む) 32単位

※選択必修科目23科目のうち、7科目14単位必修
注) ☆印の科目は履修登録制限単位に含まれません。

10 教職課程(経営学部)

問合せ先 教務センター(教職支援係)

教職に関する科目

各科目に含めることが必要な事項	授業科目	左記に対応する開設授業科目								履修可能学年	修得科目チェック
		単位数									
		中1種(社会)		高1種(地理歴史)		高1種(公民)		高1種(商業)			
必修	選択必修	必修	選択必修	必修	選択必修	必修	選択必修				
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2		2		2		2		2~4年	
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2		2		2		2		2~4年	
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	学習・発達論	2		2		2		2		2~4年	
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育の制度と経営	2		2		2		2		2~4年	
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2		2		2		2		2~4年	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	1		1		1		1		3~4年	
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	社会科教育法※1	4								3~4年	
	社会・地理歴史科教育法※1		4	4						3~4年	
	社会・公民科教育法※1		4			4				3~4年	
	商業科教育法※1						4			3~4年	
道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と実践※2	2								3~4年	
特別活動の指導法	特別活動の方法	1		1		1		1		3~4年	
総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	1		1		1		1		3~4年	
教育の方法及び技術	教育方法論	1		1		1		1		3~4年	
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	情報通信技術の活用	1		1		1		1		3~4年	
生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導の方法	2		2		2		2		4年	
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法											
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談(カウンセリングを含む)	2		2		2		2		3~4年	
教職実践演習	教職実践演習(中・高)※3	2		2		2		2		4年	
教育実習	教育実習Ⅰ※4	5			5		5		5	4年	
	教育実習Ⅱ※4				3		3		3	4年	

※1. 中1種社会免許取得希望者は「社会科教育法」に加え「社会・地理歴史科教育法」もしくは「社会・公民科教育法」が必修。

※1. 高1種免許取得希望者は「該当教科の教育法」が必修。

※2. 中1種社会免許取得希望者は必修。

※3. 「教職実践演習(中・高)」を履修するにあたり、所定の期間内に本学指定の「教職課程履修カルテ」を教務センター(教職支援係)に提出することが要件となります。

※4. 中1種免許又は中・高両免許取得希望者は「教育実習Ⅰ」を履修してください。

※4. 高1種免許のみ取得希望者は「教育実習Ⅱ」を履修してください。

教育実習

教育実習を履修するためには、学部ごとに定められた以下履修要件を満たす必要があります。

教育実習の履修要件

免許状の種類		3年生終了時の卒業所要単位の修得単位数	教科教育法及び教職に関する科目の修得科目と修得科目数	マナー研修の受講
中学校教諭1種	社会	90単位以上	社会科教育法及び社会・地理歴史科教育法又は社会・公民科教育法を含む6科目以上を修得	教務センター(教職支援係)が実施するマナー研修を受講済みであること。
高等学校教諭1種	地理歴史	90単位以上	社会・地理歴史科教育法を含む5科目以上を修得	
	公民	90単位以上	社会・公民科教育法を含む5科目以上を修得	
	商業	90単位以上	商業科教育法を含む5科目以上を修得	

注1. 「教育実習」は中学校教諭・高等学校教諭の免許の種類によって実習期間が異なります。

中・高両方の免許状取得希望者は、必ず「教育実習Ⅰ(中学校教諭)5単位」を履修してください。

注2. 実習校への受け入れ内諾依頼は、実習を実施する前年度(原則、3年生)に学生本人が行います。

学生本人が依頼できない学校や、大学から申請を必要とする学校などについては、新3年生教職課程ガイダンスで説明します。

注3. 教育実習中に本人の過失による重大なトラブルが発生した場合は、教育実習期間中であっても実習を中止する場合があります。

通信課程による教員免許状取得について

通信課程について

提携大学の通信教育科目等履修制度を活用し、本学在学中に以下の教員免許状を取得することができます。

本プログラムは、学習意欲に富み、教員としての資質向上を目指し、且つ教職に就く強い意志を持ちあわせた学生が対象になります。

なお、プログラムの履修には本学教職課程(中学校教諭1種)の履修が必須です。また、定員や履修条件がある他、別途費用が必要となります。詳細は1年生教職課程ガイダンスで説明しますので必ず出席してください。また、本プログラム履修者は原則としてプログラムの途中辞退は認められません。

取得できる免許状と履修期間

- ①小学校教諭2種免許状
玉川大学科目等履修生(履修期間:3~4年次の2年間)
- ②小学校教諭2種免許状
佛教大学科目等履修生(履修期間:2~4年次の3年間)
- ③特別支援学校教諭1種免許状(知的障害者・肢体不自由者・病弱者)
明星大学科目等履修生(履修期間:2~4年次の3年間)

【取得できる学部学科】 ○:履修可 ×:履修不可

学部学科		①小免2種 (玉川大)	②小免2種 (佛教大)	③特別支援 (明星大)
文	日文/言表	○	○	×
	歴史	○	○	×
国際		○	○	○
心理		○	○	○
法		○	○	○
経済		×	×	○
経営		×	×	○
総政		×	○	○
現社		○	○	×
工		×	×	×
スポーツ科	教育	○	○ ※④	○
	健康	○	×	
	競技/トレーナー/ マネジメント	×	×	
総履修単位数		25単位	29単位	29単位
概算諸費用	2年次	-	180,000円	111,000円
	3年次	189,000円	119,500円	193,000円
	4年次	144,500円	34,000円	135,000円
	総額	333,500円	333,500円	439,000円

- ④小学校教諭1種免許状
佛教大学科目等履修生(履修期間:2~4年次の3年間)
総履修単位数:47単位
概算諸費用:2年次215,000円 3年次150,000円
4年次34,000円
2年又は3年次にスクーリング受講料82,500円 総額481,500円
1種免許状から2種免許状への途中変更はできません。

- ※①②③④の複数同時履修はできません。
- ※本学教職課程(中学校教諭1種)の履修が必須です。
- ※諸費用については概算であり、変更される場合があります。
- ※玉川小免2種のスクーリング(推奨4単位)で受講する場合は、別途48,000円が必要となります。
- ※佛教小免2種及び特別支援は、スクーリング(必修)費用を含んだ金額です。
- ※諸費用は履修状況により変動する他、スクーリング実施時の交通費・宿泊費や教科書代等は含まれていません。諸費用等は提携大学に各自で支払います。

学部・学科別プログラム履修条件等

- ①小学校教諭2種免許状(玉川大学通信教育課程)
《文・心理・法・現代社会学部》定員若干名
《国際学部》定員若干名
・2年次春学期終了時のトータルGPA2.5以上、卒業所要単位56単位以上
《スポーツ教育学科》玉川大学・佛教大学合わせて定員30名
・1年次終了時のトータルGPA2.5以上、卒業所要単位40単位以上
・2年次終了時のトータルGPA2.5以上、卒業所要単位74単位以上及び教職に関する科目(「体育科教育法IA」及び「保健科教育法IA」を含む)を5科目以上修得
《スポーツ健康科学科》定員20名
・1年次終了時のトータルGPA2.5以上、卒業所要単位40単位以上
・2年次終了時のトータルGPA2.5以上、卒業所要単位74単位以上
- ②小学校教諭2種免許状(佛教大学通信教育課程)
《文・心理・総合政策学部》定員若干名
《国際学部、現代社会学部》定員若干名
・1年次終了時のトータルGPA2.5以上、卒業所要単位32単位以上
《法学部》定員若干名
・1年次終了時のトータルGPA2.0以上、卒業所要単位40単位以上
《スポーツ教育学科》玉川大学・佛教大学合わせて定員30名
・1年次終了時のトータルGPA2.5以上、卒業所要単位40単位以上
- ③特別支援学校教諭1種免許状(明星大学通信教育課程)
《心理・経済・経営・総合政策学部》定員若干名
《国際学部》定員若干名
・1年次終了時のトータルGPA2.5以上、卒業所要単位32単位以上
《法学部》定員若干名
・1年次終了時のトータルGPA2.0以上、卒業所要単位40単位以上
《スポーツ科学部》定員22名
・1年次終了時のトータルGPA2.5以上、卒業所要単位40単位以上
- ④小学校教諭1種免許状(佛教大学通信教育課程)
《スポーツ教育・スポーツ健康科学科》定員若干名
・1年次終了時のトータルGPA2.5以上、卒業所要単位40単位以上

その他注意

- ※「1年生教職課程ガイダンス」に参加し、所定の学内手続きを期日までに行ってください。その後、学部教員による面接を行い、履修可否の決定を行います。なお、各プログラムにおいて定員を超えた場合、GPA等により選抜を行います。
- ※履修許可後に提携大学科目等履修生の手続きを行います。
- ※履修に際して各種ガイダンスが行われますので必ず参加してください。
- ※トータルGPA、卒業所要単位の判定は、手続きの日程上、成績開示日の情報で行います。
- ※本学教職課程の「教育実習」とは別に、4年次秋学期(9~10月頃)に小学校や特別支援学校で教育実習を行います(実習校への教育実習依頼は3年次で実施)。
- ※履修修了者は卒業後直ちに、教育委員会に小学校や特別支援学校免許状の個人申請を行います。なお、申請には中学校教諭1種免許状が必要になるため、本学教職課程にて必ず取得してください。
- ※プログラム開始後の履修状況により本プログラムの履修許可を取り消す場合もあります。

司書教諭課程について

司書教諭とは、教員免許状(普通)を持っていて、その小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に設置されている学校図書館において、各種のメディアを収集し、整理保存し、これを児童又は生徒及び教員の利用に供することによって、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、学校図書館を活用した教育活動の企画・実施を行うために必要とされる資格です。

教員免許状の取得が条件です。教員となりその学校図書館(図書室)を管理・運営する資格を得ることのできる課程です。

資格を取得するには

司書教諭の資格を修得しようとする学生は、卒業に必要な単位のほかに、教職課程及び下表で示す司書教諭課程の単位を修得する必要があります。

司書教諭課程科目一覧

学校図書館司書教諭講習規程に定める科目	本学の開講科目	単位	履修可能学年	要件	修得科目チェック
学校経営と学校図書館(2単位)	※学校経営と学校図書館	2	3~4年	①全6科目必修(12単位) ②教職課程履修	
学校図書館メディアの構成(2単位) 【注1】	図書館情報資源概論【注2】	2	2~4年		
	情報資源組織論	2	2~4年		
学習指導と学校図書館(2単位)	※学習指導と学校図書館	2	3~4年		
読書と豊かな人間性(2単位)	※読書と豊かな人間性	2	3~4年		
情報メディアの活用(2単位)	※情報メディアの活用	2	3~4年		
規定科目の修得単位数 10単位	本学の科目修得単位数	12単位			

※で印した4科目は、名古屋キャンパスのみで隔年開講している科目です。

詳細(開講の有無など)は、別途作成の「司書教諭課程開講科目時間割表」で確認してください。

【注1】省令科目は「学校図書館メディアの構成」(2単位)ですが、本学では司書課程科目「図書館情報資源概論」(2単位)と「情報資源組織論」(2単位)の2科目4単位を読み替えとします。したがって、合計6科目12単位の修得が必要です。なお、司書課程履修者は「図書館情報資源概論」「情報資源組織論」ともに2~4年で履修可能です。

【注2】文学部の学部固有科目です。文学部生は履修登録制限単位に含まれます。

履修条件

- ①教職課程を履修し、教員免許状を取得する予定であること。
- ②大学に2年以上在学し、62単位以上修得していること。

司書教諭課程への登録について

司書教諭の資格を得るためには『司書教諭課程』への登録が必要です。3年生の時に手続きをします。その際、所定書類の提出と司書教諭課程履修費(18,000円。ただし、司書課程履修者は12,000円)を一括納入する必要があります。なお、納入後の課程履修費の返還はできません。

科目の履修方法・注意事項について

1. 司書教諭課程は、文学部で開講されています。従って文学部以外のの方は所属学部・学科の時間割との関係で受講が制約される可能性があります。
2. 司書教諭課程科目の履修登録は、一般の科目と同様に行います。また、履修登録は受講科目に基づき毎年必要です。
3. 開講方法に関しては、隔年開講など、年度によって変更されることがあります。

《履修上の注意》

他資格(司書・学芸員など)を同時に取得希望する学生は、時間割の都合で資格に必要な科目を受講できない場合、資格取得ができなくなることがあります。

修了証書の交付

文部科学省より交付されます。

在学中に、教職課程及び司書教諭課程における所要の単位を修得し、卒業後各自で別途申請を行うことによって修了証書の交付を受けることができます(文部科学省からの交付時期は卒業翌年3月)。

司書課程について

司書とは、図書館情報学の知識と技術を身に付け、図書館固有のサービスに従事する図書館の専門的職員のことです。特に公共図書館の専門的職員となるための資格を得ることのできる課程が司書課程です。

資格を取得するには

司書の資格を取得しようとする学生は、卒業に必要な単位のほかに下表で示す単位を修得する必要があります。

司書課程科目一覧

区分	図書館法(第5条)に規定する図書館に関する科目	単位	履修可能学年	要件	修得科目チェック
基礎科目	生涯学習概論【注1】	2	1~4年	全11科目 必修 (22単位)	
	図書館概論【注2】	2	1~4年		
	図書館情報技術論	2	2~4年		
	図書館制度・経営論	2	2~4年		
図書館サービスに関する科目	※図書館サービス概論	2	2~4年		
	※情報サービス論	2	2~4年		
	※児童サービス論	2	2~4年		
	情報サービス演習	2	3~4年		
図書館情報資源に関する科目	※図書館情報資源概論【注2】	2	2~4年		
	情報資源組織論	2	2~4年		
	情報資源組織演習	2	3~4年		
選択科目	※図書館基礎特論	1	3~4年	2科目 選択必修 (2単位)	
	※図書館情報資源特論	1	3~4年		
	※図書・図書館史	1	3~4年		
	図書館サービス特論	1	*		
	図書館施設論	1	*		
	図書館総合演習	1	*		
	図書館実習	1	*		
法定及び本学の修得単位数		24単位			

- ※で印した7科目は、名古屋・豊田キャンパスで隔年開講予定の科目です。詳細(開講の有無など)は、別途作成の「司書課程開講科目時間割表」で確認してください。
- 不開講科目については、履修可能学年欄を「*」で表記しています。

【注1】Cコースでは、現代社会学部の学部固有科目「生涯学習論」(1年次以上配当)を履修してください。

現代社会学部の学生は履修登録制限単位に含まれます。

【注2】文学部の学部固有科目です。文学部生は履修登録制限単位に含まれます。

司書課程への登録について

司書の資格を得るためには『司書課程』への登録が必要です。以下のとおり手続きをしてください。

1. 司書課程は、1年生春学期に申し込みをしてください。申込期間・方法については、新入生ガイダンスで詳細を案内します(2年生春学期より司書資格課程履修を希望する場合は、教務センターへ要相談)。
2. 司書課程への登録には、所定書類の提出と、司書課程履修費(30,000円)を一括納入する必要があります(春学期1回目講義受講まで)。なお、納入後の課程履修費の返還はできません。

科目の履修方法と注意事項について

1. 司書課程は、文学部で開講されています。従って文学部以外の方は所属学部・学科の時間割との関係で受講が制約される可能性があります。
2. 司書課程は学部により、以下のA・B・Cの3コースに分けられています。事情により所属コースでの履修ができない場合は、4年生に限り他コースでの履修が認められる場合がありますので、教務センターに相談してください。

Aコース	文・国際
Bコース	心理・法・総合政策・経済・経営
Cコース	現代社会・スポーツ科

3. 司書課程科目の履修単位は、在籍学部の履修制限単位・卒業所要単位には含まれません。ただし、学部固有科目として開講している科目は、その科目が開講されている学部生のみ履修制限単位・卒業所要単位に含まれます。
4. 司書課程時間割表は春学期履修登録期間の前にCHUKYO ALBOにて配信します(新入生には履修申し込み手続き時に配布します)。科目によっては隔年開講になりますので、計画的に履修してください。
5. 司書科目の履修登録は、一般の科目と同様に行います。履修登録は当該年度の開講科目に基づき毎年必要になります。

《履修上の注意》

他資格(教職・司書教諭・学芸員など)を同時に取得希望する学生は、時間割の都合で資格に必要な科目を受講できない場合、資格取得ができなくなることがあります。

資格証明書の発行

在学中に司書課程における所要の単位を修得した方には、本学より卒業式当日に司書資格取得証明書を発行します(所要の単位を修得していても、卒業しないと資格が取得できません)。また、「資格取得見込証明書」等が必要な場合は、証明書発行窓口で相談してください。

学芸員とは

学芸員は、博物館において資料の収集・保管・展示及び調査研究、その他これと関係する事業についての専門的事項を担当します。

なお、博物館とは、美術館、考古学・歴史関係資料館、郷土館、記念館、民芸館、民俗資料館、科学博物館、動・植物園、水族館、天文館など、広い分野における公立・私立施設をいいます。

学芸員資格を取得するには

資格取得の条件は、「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」(博物館法第5条第1項1号)となっています。本学では、文学部・現代社会学部に設置された学芸員課程科目を履修することにより、学芸員の資格を取得することができます。課程修了者には学芸員資格証明書を卒業時に交付します。

学芸員課程の履修申し込み

学芸員の資格を得るためには学芸員課程への登録が必要です。以下のとおり申し込み手続きをしてください。

1. 学芸員課程への登録は1年生の秋学期開講時に行います。履修申込方法についての詳細は、7月頃に実施される学芸員課程ガイダンスで説明します。ガイダンスの開催はCHUKYO ALBOで連絡します。
2. 学芸員課程への登録は、所定の手続きを行った後、学芸員課程履修費を納入(30,000円)する必要があります。なお、納入後の課程履修費の返還はできません。

学芸員課程科目の履修方法・注意

学芸員課程への登録終了後から、学芸員課程科目の履修ができます。

1. 学芸員課程資格科目一覧表の科目(学則に定める本学開講の学芸員となるための授業科目)を履修し、要件を満たさなければなりません。
2. 学芸員課程科目は、文学部・現代社会学部で開講しています。従って他学部生が履修する場合は、所属学部・学科の時間割との関係で受講可能な学期を次年度以降とせざるを得ない場合もあります。
3. 「博物館実習」は、「博物館概論」の単位を修得していないと履修できません。
4. 「博物館実習」を履修するには、館園実習のために博物館に納める費用が必要です。
[豊田キャンパス履修生]
野外民族博物館リトルワールドにて館園実習を行います。実習費用の確認および納入方法は授業内での教員の指示に従ってください。
※リトルワールド以外での館園実習を希望する場合は、事前に担当教員に相談してください。
[名古屋キャンパス履修生]
各自で希望の博物館に実習を申し込みます。そのため、学内で納入することはありません。費用の有無や金額は受け入れ先博物館によって異なります。
5. 学芸員課程の各科目では、授業の一部として愛知県及び近隣の博物館で研修・見学が実施されることがあります。交通費その他の費用は学生の負担となります。

《履修上の注意》

他資格(教職・司書・社会福祉士・社会教育主事など)を並行して取得しようとする学生は、時間割の都合で資格に必要な科目を希望どおりには受講できない場合、また資格取得が難しくなることがあります。

学芸員資格証明書の発行

学芸員課程の登録者で、所定科目の単位を履修・修得し要件を満たした学生には、卒業時に「学芸員資格証明書」を発行します。また、「資格取得見込証明書」等が必要な場合は、大学HPから申請してください。

13 学芸員課程

問合せ先 教務センター

学芸員課程資格科目一覧表

博物館法施行規則に定める科目	本学開講科目	単位	時期	履修可能学年	要件	科目を設置している学部	修得科目チェック	
必修	生涯学習概論	生涯学習論I	2	秋学期	1～4年	いずれか1科目 選択必修	現代社会学部	
		生涯学習概論	2	春・秋学期	1～4年		文学部	
	博物館概論	博物館概論	2	秋学期	1～4年	必修	現代社会学部	
			2	春学期	2～4年		文学部	
	博物館経営論	博物館経営論	2	春学期	2～4年	必修	文学部・現代社会学部	
	博物館資料論	博物館資料論	2	秋学期	2～4年	いずれか1科目 選択必修	現代社会学部	
		歴史資料と博物館	2				文学部	
	博物館資料保存論	博物館資料保存論	2	春学期	3～4年	必修	文学部・現代社会学部	
	博物館展示論	博物館展示論	2	秋学期	2～4年	必修	文学部・現代社会学部	
	博物館教育論	博物館教育論	2	春学期	2～4年	必修	文学部・現代社会学部	
博物館情報・メディア論	博物館情報・メディア論	2	秋学期	3～4年	いずれか1科目 選択必修	現代社会学部		
	地域と歴史文化情報	2				文学部		
博物館実習	博物館実習	3	通年	3～4年	必修	現代社会学部		
				4年		文学部		
選択	その他	文化人類学入門	2	春学期	1～4年	いずれか1科目 選択必修	現代社会学部	
		郷土の民俗特論	2		2～4年		文学部	

学芸員課程科目を履修する場合は、名古屋キャンパスの学生は文学部で、豊田キャンパスの学生は現代社会学部で受講してください。在学するキャンパスでの科目履修に支障をきたす場合は教務センターに申し出てください。

1. 必修科目は博物館法で定められた科目です。必ず履修・修得してください。
2. 選択科目は本学の指定科目です。必ず履修・修得してください。詳細は学芸員課程ガイダンスで説明します。
3. 「博物館実習」は「博物館概論」の単位を修得していないと履修することができません。
4. 全ての科目が卒業要件に含まれるとは限りません。卒業要件に含む科目は各学部の「学部固有科目一覧表」で確認してください。

学芸員資格認定試験について

在学中に学芸員資格を得るのに必要な単位を満たすことができずに卒業した場合、次のいずれかの方法で学芸員資格を取得することが可能です。

- *科目等履修生として不足単位を修得する(本学以外でも一部可能)
- *文化庁の学芸員資格認定試験を受験する

社会教育主事課程について

社会教育主事とは、都道府県・市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で社会教育を行う者に対する専門的・技術的な助言・指導に当たる役割を担います。また、社会教育主事補は、社会教育主事の職務を補助する役割を担います。

資格を取得するには

社会教育法第9条の4の3に以下のとおり規定されています。

大学に2年以上在学して62単位以上を修得し、かつ、大学において文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得した者で、以下のイからハまでに掲げる期間を通算した期間が1年以上になるもの。

- イ. 社会教育主事補の職にあった期間
- ロ. 官公署又は社会教育関係団体における社会教育に関係のある職で文部科学大臣の指定するものにあった期間
- ハ. 官公署又は社会教育関係団体が実施する社会教育に関係のある事業における業務であって、社会教育主事として必要な知識又は習得に資するものとして文部科学大臣が指定するものに従事した期間(イ又はロに掲げる期間に該当する期間を除く)

本学は、社会教育主事課程を現代社会学部に設置しています。

資格取得のためには、社会教育主事課程の履修申し込みを行い、上記規定に基づき、資格に必要な所定科目の単位を履修・修得することで、卒業時に社会教育主事となりうる資格(任用資格)が得られます。

社会教育主事になるためには、社会教育主事となりうる資格を有している者が、都道府県・市町村教育委員会から《社会教育主事》として発令されることが必要です。

社会教育主事課程の履修申し込みについて

社会教育主事の任用資格を得るためには社会教育主事課程の履修申し込みが必要です。以下のとおり申し込み手続きをしてください。

1. 社会教育主事課程の履修申込は3年生で行います。履修申込方法についての詳細は、新3年生を対象に新学期開講前(3月下旬)にCHUKYO ALBOで資格説明資料を配信します。
2. 社会教育主事課程の履修申込は、所定書類の提出と社会教育主事課程履修費の納入(15,000円)をしなければなりません。なお、納入後の課程履修費の返還はできません。
3. 3年生で社会教育主事課程の履修申込をした学生は、**4年生の春学期(4月)に社会教育主事課程履修継続手続申請書を提出**しなければなりません。教務センター窓口で申請書を受け取り必ず手続きを行ってください。

科目の履修方法

社会教育主事課程履修申込後の3年生から、社会教育主事課程科目が履修・修得できます。

1. 社会教育主事課程は、現代社会学部で開講しています。従って他学部生が履修する場合は地理的条件、所属学部・学科の時間割との関係で受講が制約されることがあります。
2. 社会教育主事課程資格科目一覧表に定める科目(本学開講の授業科目)を履修・修得し、要件を満たさなければなりません。
3. 社会教育主事課程科目以外にも、資格に必要な科目があります。社会教育主事課程資格科目一覧表を確認し、資格に必要な科目を1年生から積極的、計画的に履修・修得してください。

《履修上の注意》

他資格(教職・司書・社会福祉士・学芸員など)を同時に取得希望する学生は、時間割の都合で資格に必要な科目を受講できない場合、資格取得ができなくなることがあります。

社会教育主事単位取得証明書の発行について

社会教育主事課程の履修者で、所定科目の単位を履修・修得し要件を満たした学生には、卒業時に「社会教育主事単位取得証明書」を発行します。また、同資格「単位取得見込証明書」等が必要な場合は、証明書発行窓口(教務センター内)で相談してください。

14 社会教育主事課程

問合せ先 教務センター

社会教育主事課程資格科目一覧表

社会教育法に定める科目	本学開講科目	単位	履修可能学年	要件	科目を設置している学部等	修得科目チェック	
必修	生涯学習概論	生涯学習論I	2	1~4年	修得	現代社会	
		生涯学習論II	2	2~4年	修得		
	生涯学習支援論	生涯学習支援論	4	3~4年	修得	社会教育主事課程	
	社会教育経営論	社会教育経営論	4	3~4年	修得	社会教育主事課程	
	社会教育特講	現代社会学	2	1~4年	この中で8単位修得	現代社会	
		地域社会学	2	2~4年			
		家族社会学	2	2~4年			
		教育問題と学校の社会学	2	1~4年			
		社会階層と教育の社会学	2	3~4年			
		環境社会学	2	2~4年			
		国際理解教育II(注2)	4	2~4年			
		博物館概論	2	1~4年			
		博物館資料論(注3)	2	2~4年			
		博物館経営論(注3)	2	2~4年			
		図書館概論(注4)	2	1~4年		司書課程	
		図書館サービス概論(注4)	2	2~4年			
		マスコミの社会学	2	2~4年		現代社会	
		現代社会と福祉I	2	1~4年			
		現代社会と福祉II(注5)	2	1~4年			
		人間形成論	2	2~4年			
		発達心理学	2	2~4年			
		臨床心理学	2	2~4年			
		コミュニティ心理学	2	1~4年			
		社会心理学	2	2~4年			
教育学	2	1~4年	全学共通科目				
教育と社会	2	1~4年					
スポーツ社会学(注1)	2	2~4年	スポーツ科				
生涯スポーツ論(注1)	2	2~4年					
健康教育学(注1)	2	2~4年					
レジャー・レクリエーション論(注1)	2	1~4年					
社会教育実習							
選択	社会教育演習	社会教育課題研究(社会教育実習を含む)	4	3~4年	修得	社会教育主事課程	
	社会教育実習						
	社会教育課題研究						

(注1) スポーツ科学部生のみ履修を認めている科目です。他学部生の履修は認められていません。

(注2) 履修者数制限を行っている科目です。

(注3) 現代社会学部国際文化専攻の学生及び学芸員課程履修者に履修を認めている科目です。

(注4) 司書課程履修者のみ履修を認めている科目です。

(注5) 現代社会学部社会福祉学専攻の学生のみ履修を認めている科目です。他学部及び現代社会学部他専攻の学生の履修は認められていません。

経営学部 経営学科 教育課程

◎必修科目 ○選択科目 ●自由科目

科目区分	授業科目	単位数	配当セメスター								摘要			
			1年次 春	1年次 秋	2年次 春	2年次 秋	3年次 春	3年次 秋	4年次 春	4年次 秋				
全学共通科目	ベーシック英語リーディングA	1	○										リーディングA、リーディングB、コミュニケーションA及びコミュニケーションBの中からそれぞれ1単位選択必修	
	ベーシック英語リーディングB	1	○	○										
	エレメンタリー英語リーディングA	1	○											
	エレメンタリー英語リーディングB	1	○	○										
	インターメディアイト英語リーディングA	1	○											
	インターメディアイト英語リーディングB	1	○	○										
	アドバンス英語リーディングA	1	○											
	アドバンス英語リーディングB	1	○	○										
	ベーシック英語コミュニケーションA	1	○											
	ベーシック英語コミュニケーションB	1	○	○										
	エレメンタリー英語コミュニケーションA	1	○											
	エレメンタリー英語コミュニケーションB	1	○	○										
	インターメディアイト英語コミュニケーションA	1	○											
	インターメディアイト英語コミュニケーションB	1	○	○										
	アドバンス英語コミュニケーションA	1	○											
	アドバンス英語コミュニケーションB	1	○	○										
全学共通科目	ドイツ語基礎A	2	○										各外国語基礎A及び外国語基礎Bをセットで4単位選択必修	
	ドイツ語基礎B	2	○	○										
	ロシア語基礎A	2	○											
	ロシア語基礎B	2	○	○										
	フランス語基礎A	2	○											
	フランス語基礎B	2	○	○										
	中国語基礎A	2	○											
	中国語基礎B	2	○	○										
	スペイン語基礎A	2	○											
	スペイン語基礎B	2	○	○										
	韓国朝鮮語基礎A	2	○											
	韓国朝鮮語基礎B	2	○	○										
	ことばの科学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		14単位選択必修
	ことばと文化	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	異文化研究	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	卓球	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
硬式テニス	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
バドミントン	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
ゴルフ	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
ニュースポーツ	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
バレーボール	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
バスケットボール	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
ソフトボール	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
サッカー	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
トレーニング	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
フィットネス	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
エアロビクス	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
シーズンスポーツ/スケート	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
アダプテッドスポーツA	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
アダプテッドスポーツB	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
健康科学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2単位選択必修		
スポーツ科学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
現代社会とスポーツ	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4単位選択必修		
数学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
数理と社会	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
教養統計学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
社会における統計学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
物理学概論	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
日常の中の物理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
化学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
身近な物質の化学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
宇宙地球科学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
人間生活の中の宇宙地球科学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
生物学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
生物と環境	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
ウェブ設計	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
コンピュータプログラミング	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
哲学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
科学と技術の哲学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
倫理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			

人間の探究	自由と正義の倫理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4単位選択必修		
	論理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	レトリックの論理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	心理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	日本史	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	日本史と現代世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	東洋史	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	アジア史と現代世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	西洋史	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	ヨーロッパ史と現代世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	文学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	人間の心と言葉	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	教養基礎科目	日本国憲法	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	4単位選択必修
		法学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
		政治学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
		国際関係と日本	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
社会学		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
障害と社会		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
経済学		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
くらしと経済		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
人文地理学		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
地域らしさの探求		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
教育学		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
教育と社会		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
文化人類学概論		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
ジェンダー論		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
現代社会とジェンダー		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
複合領域		環境科学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4単位選択必修	
	環境テーマ論	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	情報科学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	情報と技術	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	平和学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	国際平和論	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	キャリアデザイン論	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	国際協力学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	全学共通科目	発展ゼミ(健康科学)I	2							○	○				14単位選択必修
		発展ゼミ(健康科学)II	2								○	○			
		発展ゼミ(自然科学)I	2							○					
		発展ゼミ(自然科学)II	2								○				
		発展ゼミ(人文科学)I	2								○	○			
		発展ゼミ(人文科学)II	2									○	○		
		発展ゼミ(社会科学)I	2								○				
		発展ゼミ(社会科学)II	2									○			
発展ゼミ(複合領域)I		2								○					
発展ゼミ(複合領域)II		2									○				
発展ゼミ(言語文化)I		2									○	○			
発展ゼミ(言語文化)II		2										○			
各国映画への招待		2								○	○				
英語の諸相		2							○	○	○	○			
日本語を学ぶ		2								○	○	○			
多文化リテラシー		2								○	○	○			
データサイエンス実践	2								○	○	○				
学びの実践	インターネットを思索する	2								○	○	○	2単位選択必修		
	哲学カフェ	2								○	○	○			
	考える歴史学	2								○	○	○			
	現代社会と人権	2								○	○	○			
	社会と安全	2								○	○	○			
	ボランティアの実践	2								○	○	○			
	多様性から考える	2								○	○	○			
	グローバル化と日本	2								○	○	○			
	環境をめぐる議論	2								○	○	○			
	情報と社会	2								○	○	○			
	平和の実践	2								○	○	○			
	性の諸相	2								○	○	○			
	グローバルコミュニケーション	英語の語彙と発音	2								○	○		○	2単位選択必修
		English Presentation	2								○	○		○	
		English for Travel	2								○	○		○	
		English for Entertainment	2												

16 正規留学生の全学共通科目について

問合せ先 教務センター

P2の全学共通科目一覧表に掲載の科目のほか、以下のとおり正規留学生専用科目が追加され、卒業要件が変更となります。入学後、4月に開催される「正規留学生ガイダンス」に参加する必要があります。

学年		科目群		追加科目名		卒業要件 (44単位)		
教養発展科目	学びの実践	発展ゼミ				2単位		
		テーマ指向型科目						
	外国語演習	英語						
		第二外国語						
教養基礎科目	グローバルコミュニケーション			大学生のための日本語ⅠA (1) 大学生のための日本語ⅠB (1) 大学生のための日本語ⅠC (1) 大学生のための日本語ⅠD (1) 大学生のための日本語ⅡA (1) 大学生のための日本語ⅡB (1) 大学生のための日本語ⅡC (1) 大学生のための日本語ⅡD (1)		4単位 *a	左の単位以外で全学共通科目のいずれかから28単位	
		外国語基礎	英語					4単位 *b
			第二外国語					
		学びのエッセンス				*c		
		テーマからの学び						
				総合日本語ⅠA (2) 総合日本語ⅠB (2) 総合日本語ⅡA (2) 総合日本語ⅡB (2)				
				ビジネス日本語Ⅰ (2)	ビジネス日本語Ⅱ (2)			
				日本事情ⅠA (2)	日本事情ⅠB (2)	4単位		
				日本事情ⅡA (2)	日本事情ⅡB (2)			
				日本事情ⅢA (2)	日本事情ⅢB (2)			
スポーツ・健康	スポーツ実技				2単位			
	学びのエッセンス				*c			
	テーマからの学び							
自然の探究	学びのエッセンス							
	テーマからの学び							
人間の探究	学びのエッセンス							
	テーマからの学び							
社会の探究	学びのエッセンス							
	テーマからの学び							
複合領域	学びのエッセンス							
	テーマからの学び							
その他								

- 「大学生のための日本語」において4単位(*a)を超えて修得した場合は、下段(*b)「外国語基礎(英語・第二外国語)」として卒業所要単位に算入されます。
- 第二外国語の履修登録はCHUKYO ALBO上では行えません。希望する場合は以下(1)(2)(3)を確認の上、履修登録期間最終日までに教務センターまで申し出てください。
 - 母語を第二外国語として履修することは認められません。
 - 選択した同一言語において、外国語基礎A・Bを修得しなければなりません。
 - 外国語演習Ⅰ・Ⅱ及び外国語応用Ⅰ・Ⅱを履修する場合は、それに対応した外国語基礎A・Bを両方修得済でなければなりません。履修希望者は必ず初回の授業に出席してください。
- 「総合日本語」のいずれかを履修するにあたっては、次に示す条件を満たしていることが望まれます。
 - 「大学生のための日本語Ⅰ」および「大学生のための日本語Ⅱ」に属する科目のうち、4科目以上の単位を修得していること。
- 6領域「スポーツ・健康」「自然の探究」「人間の探究」「社会の探究」「複合領域」「グローバルコミュニケーション」「その他」の講義科目(*c)について、選択必修科目ではありませんが、バランスよく履修・修得することを推奨します。
- 「ビジネス日本語Ⅰ」は3年次秋、「ビジネス日本語Ⅱ」は4年次春の配当科目です。
- 履修について不明な点があれば、必ず教務センターで確認してください。

CHUKYO
UNIVERSITY